



令和7年度
診療のご案内
Kitakyushu City Yahata Hospital



地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立八幡病院

基本理念

私たちは、24時間365日、質の高い医療を提供し、皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。

基本方針

- 1 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
- 2 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行ないます。
- 3 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
- 4 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
- 5 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

患者の権利と責務

北九州市立八幡病院では、安全・安心で患者さんに満足していただける医療を提供するために患者さんの基本的な権利を明確にして、これを尊重いたします。同時に守っていただきたい事柄についても責務として定め、ここに患者の権利と責務として掲示します。

患者の権利

- 1 人格、価値観など個人として尊重され、適切な医療を公平に受けることができます。
- 2 病気についてや検査・治療等について理解しやすい言葉や方法で、十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3 検査・治療について自らの意思で選択し同意、拒否をすることができます。
- 4 現在の検査や治療等について他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 5 個人のプライバシーは守られ、医療上の個人情報保護され自分の診療記録の開示を求めることができます。

患者の責務

- 1 良質で安全な医療を実現するために、ご自身の健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2 十分な説明と納得の上で、ご自身の治療に積極的に参加・協力してください。
- 3 他の患者さんの治療・療養環境に配慮し、病院職員の医療業務に支障を与えないように病院の規則や社会的マナーを守る責務があります。
- 4 適切な医療を維持していただくために、医療費を遅滞なくお支払いください。

子どもの患者の権利

こども憲章

北九州市立八幡病院小児科では全ての子供とそこご家族に安全・安心の医療を24時間365日提供するため子供の権利を明確にしてそれを尊重いたします。

- 1 子どもはひとりの人として一大切にされ幸せを望まれ思いやりのある医療を受けることができます。
- 2 子どもは医療の現場で最善の利益を得るように考えてもらう権利を有しています。
- 3 子どもが病気になった時には安心、安全な環境で心や体のケアを受けることができます。
- 4 子どもは入院中親や親の代わりになる人と出来る限り一緒に過ごすことができます。
- 5 子どもは不当である(虐待、酷使、放任など)と思われる環境にいると判断された場合日常生活、福祉、医療において完全に守られる権利を有しています。
- 6 子どもは病気の事や病気を治す方法を年齢や理解力に合わせた方法で言葉や絵を使って病院スタッフから説明を受けることができます。
- 7 子どもは十分な説明を受けた上で自分の気持ちや希望や意見を言うことができ希望通りにならなかった場合には説明してもらう権利を有しています。
- 8 子どもは病気や障害、貧富格差、能力などを理由に決して差別されず体や心を傷つける(苦痛を伴う検査など)全てのことに説明を受けそこから守られます。
- 9 子どもは自分の病気の事や自分が知られたくないことに関し勝手に誰かに言われない権利があります。
- 10 子どもは病気の時にも遊んだり勉強したり子供らしく生活する権利があります。
- 11 今だけでなく子どもが大人になっても病気や障害について寄り添える医療やケアを行うため継続的な連携を提示されます。

CONTENTS

院長挨拶	3
幹部紹介	4
病院実績	5

診療科

外科（一般）	7
消化器外科	8
呼吸器外科	9
小児外科	10
乳腺外科	11
脳神経外科	12
整形外科・リハビリテーション科	13
形成外科	14
内科	15
呼吸器内科	16
循環器内科	17
小児総合医療センター	18
小児血液・腫瘍内科	21
泌尿器科	22
皮膚科	23
眼科	24
精神科	25
婦人科	26
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	27
放射線科	28
麻酔科	29
救急科	30
歯科	31
臨床検査科	32

専門医・資格認定等一覧

医師紹介	34
------------	----

院内センター

救命救急センター	43
小児救急センター	45
小児臨床超音波センター	46
消化器・肝臓病センター	47
災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター	48

診療支援部

薬剤課	50
臨床検査技術課	51
放射線技術課	52
リハビリテーション技術課	53
栄養管理課	54
臨床工学課	55

看護部

看護部	57
-----------	----

地域医療連携室

地域医療連携室	60
---------------	----

病院概要・フロア図

病院概要	63
フロア図	65

院長挨拶



院長

岡本 好司

おかもと こうじ

日頃より北九州市立八幡病院に対し、多大なるご理解とご支援を賜ります地域の先生方に心より御礼申し上げます。温かいお心遣いにいつも感謝しております。令和7年度の診療のご案内が出来上がりましたので、お届け致します。

北九州市立八幡病院は、1930年に開設され、今年で創立95周年となります。2019年に地方独立行政法人に移行し、今年度で7年目を迎えました。病院全体で目標としてきた24時間365日、公立病院としての当院の使命であります政策医療の3本柱、救命救急医療、小児救急医療、災害医療支援を中心に地域医療に邁進して参りました。新型コロナウイルス感染症やマイコプラズマ肺炎など様々な細菌やウイルスを原因とした感染症治療のみならず、外傷や腹膜炎などの急性腹症など時期を逸すると大変なことになると考えられる緊急患者の方々を多く引き受けてきました。また、昨年末に耳鼻咽喉科を刷新し、耳鼻咽喉科・頭頸部外科を設立いたしました。この分野で、北九州地域で最も多くの手術をされてきた大久保淳一医師が就任し、他病院で手術不可能と言われた疾患の大手術を行えるようになりました。さらに、救急専門医の充実を図りました。

一方で近年医療を取り巻く環境は目まぐるしく変化しております。急速な高齢化、地域における医療の資源の偏在、ポストコロナ時代における感染症対応の継続的な必要性、医師の働き方改革、物価高騰、医療DX対応などの問題が山積しております。病院長としては、常に収入と支出が頭の中を駆け巡り、どのように進めば大きな怪我をしないで病院を運営できるかを考える日々でした。今の診療報酬では、全く医療が成り立たず、早急な政府の対応を願うばかりです。

これらの対応にさらなる工夫や努力が必要となることが今年の目標です。これからも地域の基幹病院として、更なる診療体制の充実に努め、当院の使命であります24時間365日、軽症重症問わず、老若男女すべからく受診を希望されれば、診療を行うために最大限の応需を行うべく日々オール八幡で対処してまいりたいと考え、一層の努力をしていく所存です。働きかた改革で、職員の健康に留意しながらも、進むべき方向がぶれることなく、社会に貢献出来る、そして市民に信頼される病院を目指してまいります。

今後とも、温かく、そして末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

幹部紹介



副院長
小児総合医療センター長
臨床研修センター長

天本 正乃
あまもと まさの



副院長
診療支援部長
医療情報管理室長

岡部 聡
おかべ さとし



副院長
医療安全管理室長
形成外科主任部長

田崎 幸博
たさき ゆきひろ



統括部長
地域医療連携室長

木戸川 秀生
きどがわ ひでお



統括部長

末永 章人
すえなが あきひと



統括部長

高野 健一
たかの けんいち



看護部長

高瀬 真弓
たかせ まゆみ

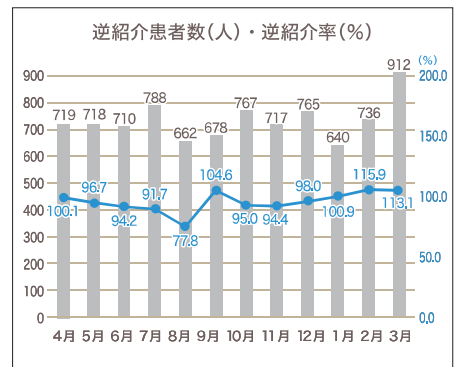
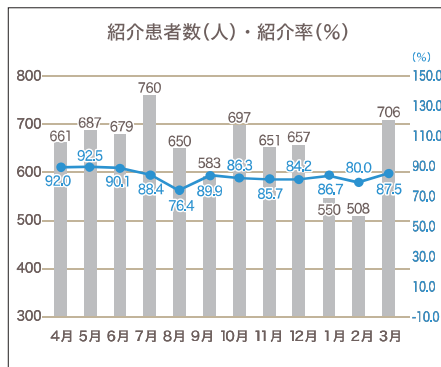
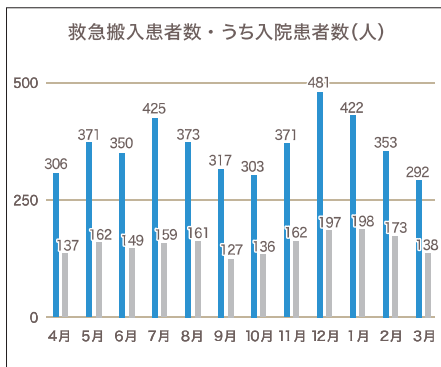
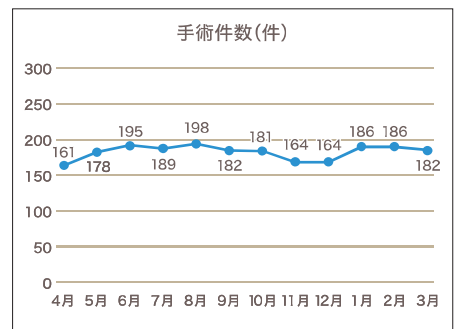
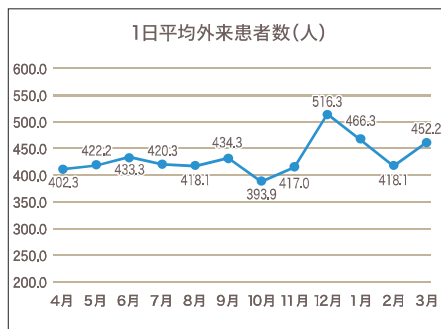
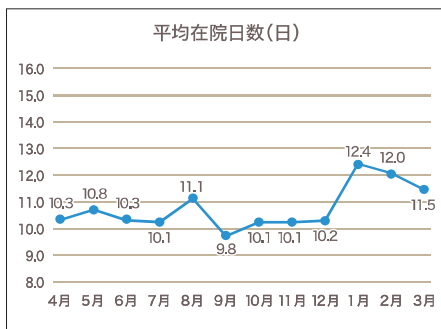
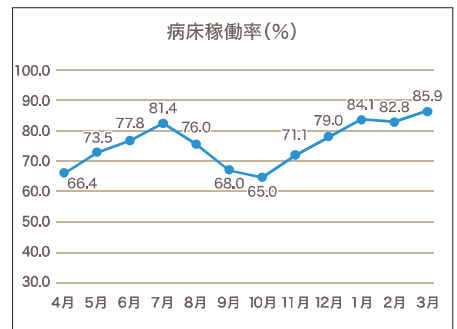
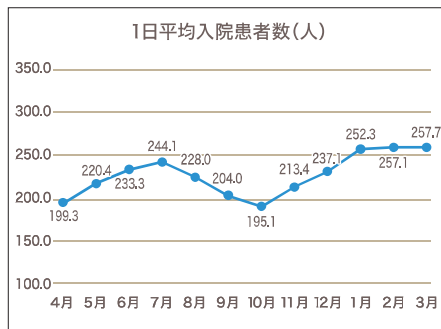
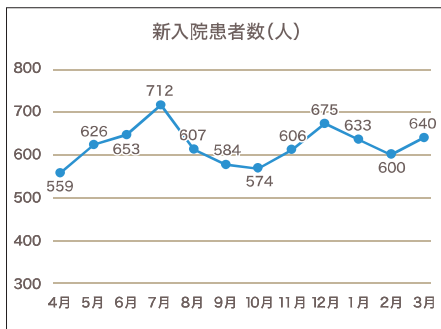


事務局長

瀬戸口 誠
せとぐち まこと

令和6年度 病院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新入院患者数(人)	559	626	653	712	607	584	574	606	675	633	600	640
1日平均入院患者数(人)	199.3	220.4	233.3	244.1	228.0	204.0	195.1	213.4	237.1	252.3	257.1	257.7
病床稼働率(%)	66.4	73.5	77.8	81.4	76.0	68.0	65.0	71.1	79.0	84.1	82.8	85.9
平均在院日数(日)	10.3	10.8	10.3	10.1	11.1	9.8	10.1	10.1	10.2	12.4	12.0	11.5
1日平均外来患者数(人)	402.3	422.2	433.3	420.3	418.1	434.3	393.9	417.0	516.3	466.3	418.1	452.2
手術件数(件)	161	178	195	189	198	182	181	164	164	186	186	182
救急搬入患者数(人)	306	371	350	425	373	317	303	371	481	422	353	292
うち入院患者数(人)	137	162	149	159	161	127	136	162	197	198	173	138
紹介患者数(人)	661	687	679	760	650	583	697	651	657	550	508	706
紹介率(%)	92.0	92.5	90.1	88.4	76.4	89.9	86.3	85.7	84.2	86.7	80.0	87.5
逆紹介患者数(人)	719	718	710	788	662	678	767	717	765	640	736	912
逆紹介率(%)	100.1	96.7	94.2	91.7	77.8	104.6	95.0	94.4	98.0	100.9	115.9	113.1



診療科

外科 (一般)

診療科の紹介

外科全体の本年度スタッフは、岡本好司 院長、木戸川秀生 統括部長、井上征雄 救急科および呼吸器外科主任部長、新山新 小児外科主任部長、山吉隆友 外科主任部長、野口純也 消化器外科主任部長、上原智仁 部長、又吉信貴 部長、沖本隆司 部長、田上貴仁 医師で構成しております。4月より田上が新たに赴任し、日々の診療を行うこととなりました。5月からは昨年も勤務していました金野武医師が新たに再赴任しました。

取り扱う主な対象疾患

消化器外科、肝胆脾外科、呼吸器外科、小児外科などの様々な領域に対し、良性疾患などの一般外科に加え悪性疾患に対する集学的治療はもちろんのこと、外傷や胸腹部緊急疾患に対する救急外科についても対応しております。診断、治療を含む上下部消化器内視鏡・ERCPやEUS等、他の施設ではみられない幅広い分野にわたる研鑽を行っていることが当科の大きな特徴であり、診療の基盤であります。

診療科の特徴 (強みや新たな取り組み等)

一般外科の疾患に加え、悪性疾患に対しては診断から治療、術後治療として抗癌剤を用いた化学療法なども胸腹部を問わず積極的に行っており、日本外科学会、消化器外科学会、呼吸器外科学会、小児外科学会の専門施設としての維持に加え、がん治療認定医機構における認定研修施設として認可されております。また、様々な救急・外傷疾患にも対応しており、外傷専門医研修認定施設、腹部救急医学会認定施設としても機能しております。消化器疾患では上部・下部の診断的内視鏡検査、消化管出血や腫瘍性狭窄に対する緊急内視鏡治療、肝胆道系緊急疾患に対するERCPなど消化器内視鏡学会専門施設としての幅広い治療も行っています。また、一般的な術後経過や敗血症、感染疾患に対しても厳格な術後管理を徹底しており、外科周術期感染管理教育施設としても認定され、日々の総合的研鑽による診療能力向上により皆様のお役に立てるよう日夜努力しております。

診療実績 (手術・検査数等)

診療科	主な臓器	主な疾患	2024年
消化器外科	食道・胃・十二指腸	食道癌	0
		潰瘍穿孔	2
		胃癌・腫瘍性疾患	11
		その他	4
	小腸・大腸・肛門	大腸癌・腫瘍性疾患	42
		イレウス	21
		小腸・大腸穿孔	2
		急性虫垂炎	37
		痔核・痔瘻・肛門疾患	30
		その他	9
		肝・胆・膵	胆石・総胆管結石
	肝癌・胆嚢癌・膵癌		10
	急性膵炎・その他		1
	ヘルニア		50
腹部外傷		2	
その他		30	
呼吸器外科	肺・縦隔	肺癌	4
		気胸・嚢胞性肺疾患	5
		膿胸・縦隔疾患	1
		多汗症	0
		その他	5
	乳腺・甲状腺	乳癌・甲状腺癌	4
	胸部外傷		0
その他		5	
14歳以下小児		ヘルニア	32
		急性虫垂炎	38
		新生児・外傷・その他	30
計			439
消化器外科	腹腔鏡下手術		280
呼吸器外科	胸腔鏡下手術		15
計			295
緊急手術			135
消化器手術			305
呼吸器手術			34
小児外科			100

スタッフ紹介



院長
消化器・肝臓病名誉センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



統括部長
木戸川 秀生
きどがわ ひでお



外科主任部長
山吉 隆友
やまよし たかとも



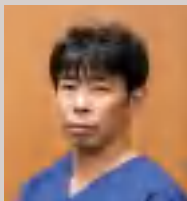
呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
救命救急センター長
井上 征雄
いのうえ まさお



小児外科主任部長
新山 新
しんやま しん



消化器外科主任部長
消化器・肝臓病センター長
野口 純也
のぐち じゅんや



外科部長
上原 智仁
うえはら としひと



外科部長
又吉 信貴
またよし のぶたか



外科部長
沖本 隆司
おきもと たかし



救急科副部長
外科副部長
金野 剛
こんの たけし



外科
田上 貴仁
たがみ たかひと

消化器外科

診療科の紹介

消化器外科はスタッフ8名で診療を行っております。スタッフには外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、内視鏡外科学会技術認定医、消化器病学会指導医・専門医、消化器内視鏡学会指導医・専門医、肝胆膵外科学会高度技能指導医、肝臓学会指導医・専門医、救急科指導医・専門医、外傷専門医、癌治療教育医・認定医等がそろっています。

取り扱う主な対象疾患

消化器外科としては胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌等の悪性疾患や胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔核等の良性疾患に対して積極的に手術に取り組んでいます。鏡視下手術も胆嚢摘出のみならず、胃癌、大腸癌を中心に意欲的に取り組んでおり、現在では消化器に関する手術の8割以上を腹腔鏡下に行っています。また、外科的治療が必要とならない消化器疾患に対しても当科において柔軟に対応出来る体制に努めています。特に消化器内視鏡学会指導医、専門医のもと、上下部内視鏡検査、胆膵内視鏡検査やそれに関連する処置等も積極的に行っております。

診療科の特徴・強み

当院は救命救急センターがあるため、急性腹症、腹部外傷等を扱う頻度が高いのが特徴です。麻酔科や手術室の協力のもと、いつでも緊急手術が可能な体制をとっています。また治療に際しては、患者様が思い描く最良の結果を得られるよう、各疾患の診療ガイドラインなども参考にしながら科学的根拠に基づいて手術や治療戦略を立てています。特に悪性疾患の患者様には、不安を取り除くために、病気の程度や手術の内容、あるいは抗癌剤治療の内容や予定など、分かり易く説明を行うことを心掛けています。

新病院では、手術室内に血管造影とCT検査が同室で出来るハイブリッドオペレーションルームが新設されました。これにより外傷や出血性疾患に対して、より迅速に対応可能となっています。

スタッフ紹介



院長
消化器・肝臓病名誉センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



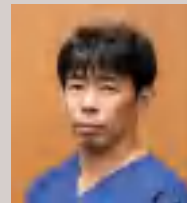
統括部長
木戸川 秀生
きどがわ ひでお



消化器外科主任部長
消化器・肝臓病センター長
野口 純也
のぐち じゅんや



外科主任部長
山吉 隆友
やまよし たかとも



外科部長
上原 智仁
うえはら としひと



外科部長
又吉 信貴
またよし のぶたか



外科部長
沖本 隆司
おきもと たかし



救急科副部長
外科副部長
金野 剛
こんの たけし



外科
田上 貴仁
たがみ たかひと

呼吸器外科

診療科の紹介

呼吸器外科専攻認定医1名を軸に、消化器外科医や小児外科医と連携しながら、呼吸器外科症例の手術を行っています。

当科の特徴・強み

救命救急センターを併設している関係で、自然気胸や急性膿胸など緊急性を有する疾患が多く、胸部外傷含む多発外傷における、胸腔ドレナージ含めた全身管理も行っています。また、新病院移転に伴い新設されたハイブリッド手術室を使用して、術中触知困難な末梢肺病変に対するナビゲーション手術も近年導入しております。乳癌検診目的のマンモグラフィー検診も年々増加しています。肺がんや縦隔腫瘍に対する完全鏡視下手術も積極的に行っています。

取り扱う主な疾患

- 重症外傷、胸部外傷
- 気胸、膿胸など急性期疾患
- 肺癌、縦隔腫瘍

スタッフ紹介



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
救命救急センター長
井上 征雄
いのうえ まさお

小児外科

診療科の概要

当院は、特色の一つに小児救急・小児総合医療センターを掲げています。そのため、北九州市のみならず近隣の市町村を含めた北九州医療圏の小児医療を担っている施設と言っても過言ではありません。そのため外傷や急性期疾患、虐待など、外科的処置の必要な子ども達が大勢運ばれてきます。小児科医のみならず脳神経外科、形成外科、整形外科、泌尿器科と手を合わせて合同で診療に当たることが必要になります。その中で小児外科は、腹部や胸部の疾患に対応出来るように心がけています。

診療科の特徴・取組み

現在常勤の小児外科医は1人のため、他科の様に“小児外科”独立で診療に当たることは困難であり、小児科医と一緒に診断・診療を行い、成人外科医とグループになって手術を行っているのが現状です。

また小児外科は2019年12月北九州市立八幡病院が新病院に移転するに当たり、正式に標榜できるようになりました。さらに日本小児外科学会教育関連施設に認定されているため、大学へ手術応援を依頼することで高度先進医療手術を提供できる状況にあると考えています。小児外科を目指したいという若手医師の研鑽の場になれるよう、また研修医が小児外科に少しでも興味を持ってもらえる場になるようにする責務があると思います。

一方、当院が現在産科を休診しているためにNICUが併設されていません。そのためどうしても新生児疾患に関しては、他の総合病院の小児外科に頼らざるを得ない状況が続いており、今後の課題として捉えていく必要があります。

小児外科は、今後も小児に携わる外科として他科と連携を保ちながら、また教育関連施設として教育にも務めながら安全な診療を心がけていきます。

取り扱う主な疾患

小児外科としては、16歳未満の手術を年間約100件前後行っています。2021年は140件を超える手術がありましたが、最近は新型コロナウイルス感染症や少子化の影響からか、100件を下回る傾向にあります。

小児（16歳未満）急性期疾患として最多は急性虫垂炎であり、平均50件程度ありましたが2024年は40件でした。全例腹腔鏡下、しかも単孔での手術で完遂しています。その次に多い疾患は外鼠径ヘルニアで、20件から30件程度手術を行っています。

その他には、自然気胸や卵巣嚢腫・卵巣奇形腫、胆道拡張症手術、化学療法を行うための中心静脈カテーテル挿入術、などの手術症例があります。

16歳未満の小児に限らず、16歳以上の重症心身障害児のお子さん達に対する気管切開術、喉頭気管分離術、胃瘻造設術などを行っています。

小児外科診療実績

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014
急性虫垂炎	40	49	57	61	51	44	70	65	69	64	65
鼠径ヘルニア	30	26	19	27	21	21	28	28	21	30	48
手術合計	97	100	119	142	93	117	144	129	115	111	123
内視鏡（鎮静下）	40	21	47	44	50	34	57	44	31	25	7

スタッフ紹介



小児外科主任部長
新山 新
しんやま しん

乳腺外科

診療科の紹介

乳腺外科は常勤医1名と非常勤医師1名の2名体制で診療を行っています。乳腺疾患の診断・治療を幅広く行っており、乳がんと診断された場合は手術療法・薬物療法・放射線療法の組み合わせにより、個々の患者さんに最適の治療を提案いたします。診療には医師のみならず看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・リハビリテーション技士など複数の職種によるチーム医療体制を整え患者さんが安心して治療を受けていただけるよう努めています。

取り扱う主な疾患

- 乳房に何らかの自覚症状がある(しこり・ひきつれ・分泌物など)
- 他院で乳がん検診を受診し「要精密検査」「要再検査」と判定された

診療科の特徴

乳腺疾患の診断はマンモグラフィと乳房超音波検査が基本となります。マンモグラフィ装置はトモシンセシスという1mm毎の断層撮影が同時に撮れる装置を導入しており、従来の装置では正常乳腺に重なって発見や観察が難しかった病変が診断しやすくなっています。

他院で異常を指摘された場合、検診で要精査となった場合など、上記の検査以外にCT・MRIなども含めて当院で精密検査が出来ますので遠慮せず受診してください。



従来のマンモグラフィ撮影(2D撮影)に加え、最新のトモシンセシス機能(3Dマンモグラフィ)も搭載されています。撮影は女性技師が担当しています。

スタッフ紹介



院長
消化器・肝臓病名誉センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
救急救命センター
井上 征雄
いのうえ まさお

(非常勤医師)
乳腺外科
田上 貴之
たのうえ たかゆき

脳神経外科

診療科の紹介

当院の脳神経外科は昭和53年の開設以来、救命救急センターの要として機能してきました。現在も北九州の地域医療の一翼を担うため、脳卒中および頭部外傷救急を中心とした救急診療に24時間体制で取り組んでおります。

現在、常勤医師3名と非常勤医師2名が在籍し診療に当たっております。超急性期治療や手術を必要とする脳卒中や、重症頭部外傷は、初期対応から診断、手術、治療に至るまで、専門医による対応を24時間体制で取っております。

取り扱う主な対象疾患

- 脳卒中全般：脳梗塞に対する超急性期再開通療法、脳出血、くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形、内頸動脈狭窄症、頭蓋内動脈狭窄・閉塞症、もやもや病など。
- 頭部外傷
- 片側顔面痙攣、三叉神経痛
- その他：脳腫瘍、水頭症など。

診療科の特徴

■一次脳卒中センター(PSC)

一次脳卒中センターとして24時間365日脳卒中患者を受け入れる体制を整備しています。脳梗塞の超急性期にはrt-PAを用いた血栓溶解療法を施行し、機械的血栓回収の適応がある場合には産業医科大学を始めとした近隣病院と連携して治療を行っています。

■脳卒中の外科手術、ハイブリッド手術

脳卒中の急性期治療から、脳卒中の発症を未然に予防すべく脳血管バイパス手術や脳動脈瘤クリッピング術、内頸動脈内膜剥離術などの脳血管の外科治療を安全に実施出来ます。高性能のMRIや最新鋭の256列のCT装置、3次元画像解析システムを活用して精度の高い診断、術前シミュレーションを行うことで、安全で効率的な手術のプランニングが可能です。さらに脳血管造影検査やCT検査を手術中に実施できるハイブリッド手術室(HOR)が完備されており、難易度の高い脳血管外科手術を安全に行うことが可能です。

■重症頭部外傷に対する神経集中治療

重症頭部外傷に対するICPセンサー(頭蓋内圧センサー)等を用いた神経集中治療が可能です。体幹部や四肢の多発外傷を伴う場合は、救急科や外科、整形外科、形成外科等と協力した集学的治療に努めています。

■術中神経モニタリング

手術中に運動神経や運動中枢、聴力、脳幹のモニタリングを行うことでより安全な手術に努めています。

■片側顔面けいれん・三叉神経痛

片側の顔面の筋肉が自分の意志とは関係なく(不随意に)ピクピクと動く顔面痙攣の診断、ボトックス治療、根治治療である神経血管減圧術を行うことができます。また、発作的な顔面の痛みが特徴である三叉神経痛に対しても薬物治療、神経血管減圧術を行うことが可能です。

スタッフ紹介



脳神経外科主任部長
高松 聖史郎
たかまつ せいしろう



脳神経外科部長
藤 圭太
とう けいた



脳神経外科副部長
岸本 拓也
きしもと たくや

整形外科・リハビリテーション科

診療科の紹介

当院は、救命救急センターを併設していることから、重度外傷が多く、また小児救急・小児総合医療センターも併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴といえます。このように当院の整形外科は救急医療とともに発展してきました。今後も、当院の使命である救命救急医療、小児救急医療、災害支援医療の一役割を担いながら、市立病院ならではの地域に根ざした、地域住民に貢献出来る医療を目指し診療を行って参ります。

診療科の特徴（強みや新たな取組み等）

これまで股・膝関節外科、手外科、外傷の各分野において、専門性の高い医療を提供してきました。2025年度から、肩・肘関節外科を専門とする医師が新たに加わり、現在6名の整形外科医により質の高い医療を提供しております。また、麻酔科医の協力のもと、術後の痛みを出来るだけ減らすよう努めています。

取り扱う主な対象疾患

■股・膝関節外科

膝および股関節の変形性関節症に対する関節温存手術（寛骨臼回転骨切り術、高位脛骨骨切り術）や人工関節置換術を行っております。人工股関節置換術は、前外側アプローチによる最小侵襲手術（MIS）をバイオクリーンルームで行っています。軽度の変形性膝関節症の場合は、単顆人工関節置換術を行います。

■手外科

手の外傷治療に加え、リウマチ手の機能再建、キーンバック病などの手根骨壊死、母指CM関節症などの変形性関節症、肘部管症候群や手根管症候群などの絞扼性末梢神経障害、腱鞘炎、デュピュイトラン拘縮、良性の骨軟部腫瘍など幅広い手術を行います。

■肩・肘関節外科

腱板断裂、反復性肩関節脱臼、上腕骨外側上顆炎（テニス肘）などに対しては、関節鏡視下手術による低侵襲治療を積極的に実施しています。また、進行した変形性関節症や外傷後の機能障害に対しては、解剖型人工肩関節置換術、リパース型人工肩関節置換術、肘関節形成術などの再建手術も行います。

診療実績（手術・検査数等）

令和6年度は、687件の手術を行いました。（手術症例一覧は2024.4.1～2025.3.31の一年間の集計）

分野	症例・検査・手術	数(年間)
人工関節	人工関節置換術(肩・股・膝)	82
	人工骨頭挿入術(肩・股)	62
腫瘍	四肢軟部腫瘍摘出術	3
	骨腫瘍切除術	1
スポーツ	アキレス腱断裂手術	6
	関節鏡下半月板切除術	1
	関節鏡下肩腱板断裂手術(簡単なもの)	1
	関節滑膜切除術(股・膝)	2
	関節鏡視下関節滑膜切除術(膝)	2
手外科	手根管開放術	19
	神経移行術	6
	神経剥離術	1
	腱鞘切開術	36
	腱縫合術	2
	腱移行術	1
	腱移植術	1
	腱剥離術	3
	関節滑膜切除術(手、肘、指)	2
	デュピュイトラン拘縮手術	6
	ガングリオン摘出術	1
	神経縫合術	1
	関節形成術(手)	3
外傷・その他	骨折経皮的鋼線刺入固定術	35
	骨折観血的手術	239
	観血的整復固定術(インプラント周囲骨折)	4
	骨内異物(挿入物を含む)除去術	81
	偽関節手術	2
	骨長調整術	1
	化膿性又は結核性関節炎掻爬術	3
	関節脱臼観血的整復術	3
	関節内骨折観血的手術	17
	断端形成術	1
	観血的関節固定術(手、指)	4
上記以外		55
合計		687

スタッフ紹介



副院長
岡部 聡
おかべ さとし



整形外科主任部長
リハビリテーション科主任部長
目貫 邦隆
めぬき くにたか



整形外科部長
田島 貴文
たじま たかふみ



整形外科部長
栗之丸 直朗
くりのまる なおあき



整形外科副部長
大久保 友貴
おおくぼ ゆうき



整形外科副部長
堀之蘭 聡
ほりのその さとし

形成外科

診療科の紹介

当院形成外科は、九州内でもとくに早い1975年に開設され、顔面、四肢をはじめとした体表面の形態異常を整容的、機能的に改善する治療を行っています。

常勤医は3名（そのうち形成外科専門医2名）で診療を行っています。

当科では形成外科全般にわたる診療を行っています。とりわけ口唇口蓋治療においては全国的にみても症例数が多く、乳児の初期手術から中高年の2次手術まで対応出来ます。また、当院の救急や各科と連携し、顔面骨折を含む顔面外傷や、切断指再接合等の手の外傷、熱傷等を数多く担当しています。形成外科の専門的な対応を要する外傷や緊急を要する外傷などの場合は、平日時間外や休日でも対応しております。

他施設から紹介をいただくことが多い疾患としては、口唇口蓋裂や多指症・合指症などの先天性形態異常、各種の皮膚皮下腫瘍、眼瞼下垂、褥瘡、難治性潰瘍などがあげられます。

取り扱う主な対象疾患

①表在性先天異常

口唇口蓋裂、眼瞼下垂、眼瞼内反症、小耳症、副耳、埋没耳などの顔面の形態異常、多指症、合指症などの四肢形態異常、臍ヘルニアなどの体幹部の形態異常に対する治療を行っています。

②皮膚、皮下、軟部腫瘍（良性、悪性）

皮膚腫瘍、皮下腫瘍、軟部腫瘍（良性、悪性）に対して手術やレーザーを用いた治療を行います。組織欠損のサイズや部位により、必要に応じて再建手術を行うことがあります。

③顔面、手の外傷

顔面の皮膚、軟部組織損傷、骨折に対する処置、手術を行っています。また手指の外傷（骨折、血管、神経、腱損傷）に対する外科的処置、再建手術を行っています。また外傷や熱傷によって生じた傷跡や瘢痕拘縮に対して手術等の治療を行うことで整容的、機能的に改善します。

④熱傷

小児を含めた熱傷患者に対して加療を行っています。軟膏や創傷被覆材を用いた保存的加療や、必要に応じて手術治療（植皮術等）を行います。

⑤難治性潰瘍

糖尿病患者の足潰瘍や下肢の虚血による潰瘍、静脈の機能不全によっておこる、うつ滞性皮膚潰瘍に対して治療を行っています。また褥瘡に対しても、軟膏療法、持続陰圧吸引療法を含めた保存的加療、皮弁手術を含めた外科的治療を行っています。

⑥巻き爪治療（自費診療）

爪に専用の矯正装具である巻き爪マイスター®を装着する巻き爪治療を行っています。自費診療になりますが、巻き爪による痛みに悩む患者さんが楽になり通って来られています。

⑦耳の矯正治療（自費診療）

生まれつきの耳の形態異常（折れ耳・絞扼耳・埋没耳など）に対して専用のイヤースプリントを用いた矯正治療を行っています。

⑧その他

足趾の爪が食い込み陥入爪、加齢により目が開きにくくなる眼瞼下垂の治療を行っています。また、Qスイッチルビーレーザーによる色素斑の治療、炭酸ガスレーザーや高周波ラジオ波メスを用いた小手術を行っています。

まぶたがひきつる眼瞼痙攣、顔の片側がびくびくする顔面けいれんに対してボトックス注射による治療を行っています。

ワキ汗（腋窩多汗症）にもボトックス注射による治療を行います。臭いが問題となる腋臭症（わきが）に対しては手術を行います。

診療科の特徴（強みや新たな取り組み等）

2020年より導入したVbeam II レーザーを、毛細血管奇形（単純性血管腫）、乳児血管腫（母状血管腫）、毛細血管拡張症といった皮膚良性血管病変の治療は件数が伸びてきました。小児科による内服治療との連携も行っています。小児、成人を問わず治療が出来ますので、お問い合わせください。

口唇口蓋裂は、乳幼児期から青年期まで、各成長段階に必要な手術や治療を行っています。中高年の患者さんで旧来の手術法による変形が残っている方に、現在の新しい手術方法で整容的機能的な修正を行い、長年の悩みを解消する効果が得られています。里帰り出産などで最初の口唇裂手術だけを希望される方や、すでに他院で手術を受けられており修正を希望される方も対応いたします。

2024年度 診療実績

区 分	件 数						
	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	67	12	50		53	556	738
II. 先天異常	145		5			5	155
III. 腫瘍	84	1	50		4	220	359
IV. 瘻管・嚢胞・肉芽腫・ケロイド	8		5			16	29
V. 難治性潰瘍	11		17			3	31
VI. 炎症・変性疾患	28		15		11	25	79
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他	2		53			7	62
レーザー治療	8					216	224
計	353	13	195	0	68	1,048	1,677

スタッフ紹介



副院長
形成外科主任部長
田崎 幸博
たさき ゆきひろ



形成外科部長
今村 禎伸
いまわら ましのぶ



形成外科副部長
幸川 くるみ
ふるかわ くるみ

内 科

診療科の紹介

外来は消化器・神経・腎臓・甲状腺・一般内科外来を設置しています。多くは非常勤医師で対応しておりますが、近隣の先生方からのご紹介に極力お応え出来るよう、スタッフ一同努力してまいります。

また救命救急センターを併設しており、出来る限り救急患者の受け入れを行っています。これからも、地域との連携を深め質の高い医療を提供出来るよう頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

診療科の特徴（強みや新たな取り組み等）

主な検査・治療

■上下部消化管内視鏡

水曜日と木曜日の午後に非常勤医師により下部消化管検査を行っています。上部消化管内視鏡は月曜日から金曜日まで午前中に非常勤医師や消化器外科医師により行っています。また吐血などの緊急内視鏡については、ほぼいつでも対応出来るようにしています。

■超音波検査

月曜日に、腹部エコー全般、体表エコー（頸部耳鼻科領域、甲状腺・副甲状腺、体表皮膚科領域）を行っています。非侵襲的な検査の代表です。小児から高齢の患者まで、状態の悪い場合も含めて検査出来ます。また、北九州の超音波検査の普及や高度化にも力を入れております。各医院でのスタッフ養成についてもお尋ね下さい。

■神経伝導速度・筋電図

しびれや筋萎縮などの原因を調べるために、電気刺激を用いて神経のどこが障害されているかを調べることが出来ます。手根管症候群や肘部管症候群などの末梢神経障害が良い適応です。また、筋肉に直接針を刺して筋萎縮の原因を調べる針筋電図も行っています。

取り扱う主な対象疾患

■消化器内科

非常勤医8名にて消化器疾患の外来診療（平日午前中）と上下部消化管内視鏡検査を行っています。腹部超音波検査、腹部CT検査など適宜施行し、診断・加療を行っています。

■甲状腺

非常勤医師1名により、バセドウ病等の甲状腺疾患の外来診療を毎週月曜日に行っています。

■脳神経内科

中枢神経（脳・脊髄）から、末梢神経、筋肉に至るさまざまな病気を対象にしています。頭痛、しびれ、ふるえ、めまい、筋力低下などの診断・治療のほか、神経救急疾患（脳血管障害、脳炎、髄膜炎、ギランバレー症候群など）や、パーキンソン病をはじめとした神経難病についても診療に当たっています。

■腎臓内科

月、火、木の週3回腎臓内科の外来診療をしています。

検診などで血尿や蛋白尿などの尿異常や、糖尿病性腎症、薬剤性腎障害、腎実質性高血圧、高尿酸血症など、腎臓病の保存期を中心に治療を行っています。当院では維持透析は行っておりませんので、末期腎不全に至った患者様は適切な医療機関へご紹介いたします。また、重症例や腎生検診断が必要な場合、産業医科大学腎臓内科と連携していますのでご紹介いたします。腎生検診断後の治療継続は、当院でも副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤などによる治療が可能ですのでご紹介ください。

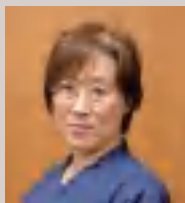
■膠原病

非常勤医師1名で毎週金曜日に外来診療を行っています。関節リウマチをはじめとした膠原病を広く診療しています。多系統領域にまたがる疾患ですので、当院の複数の専門科と協力しながら診療を行っています。重症例は、産業医大第一内科と連携して治療を行います。膠原病の病初期の判断は困難なことが多いのですが、この時期の治療の重要性も確認されています。疑わしい症例は、ご遠慮なくご紹介下さい。

スタッフ紹介



統括部長・内科主任部長
末永 章人
すえなが あきひと



内科
宮崎 三枝子
みやざき みえこ

呼吸器内科

診療科の紹介

当科では、すべての患者様に「呼吸器内科というサブスペシャリティを持つ"内科医"として、可能な限り幅広く、そして奥深く診療すること」を目標に診療を行っております。常勤医3名、非常勤医師6名体制で診療を行っており、外来は月曜日から金曜日の毎日午前呼吸器専門外来を開催しております。紹介患者様に付きましては、早急に対応する為に、事前に紹介状を頂ければ幸いです。また当院は救命救急センターを併設しておりますので、呼吸器緊急疾患に対して、24時間対応できる体制を整えております。呼吸器疾患は生命にかかわる場面が多く、迅速に対応することが必要とされますので、緊急の際はお気軽にお電話を頂ければ対応致します。北九州および八幡地域の患者様・医療機関の先生方の信用・信頼を得られるよう、一同力を合わせより良い医療を提供すべく努力を積み重ねてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

診療科の特徴(強みや新たな取り組み等)

呼吸器内科は常勤医3名と非常勤医6名の計9名で診療しています。当院の救急病院としての特色を活かし、新型コロナウイルス感染症を含む呼吸器感染症・気管支喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)・間質性肺炎を中心に急性呼吸不全及び慢性呼吸不全の急性増悪などの救急患者に対応しています。

肺癌診療に関しては、気管支鏡専門医の下、肺生検、縦隔リンパ節生検、胸腔鏡検査による肺癌診断を行なうと共に、抗がん剤治療・外科的治療に関しても積極的に取り組んでおります。

放射線治療など 当院で提供困難な治療が必要な場合は、産業医科大学病院様や北九州医療センター様と連携しておりますのでご紹介いたします。

重症気管支喘息に対しては生物学的製剤による治療を行っており、重症喘息でお悩みの患者様がございましたら、早めにご紹介頂ければ幸いです。

慢性期管理では、慢性呼吸不全に対しての在宅酸素療法の導入に加えて、薬剤師・看護師・理学作業言語療法士・MSWを含めた多職種連携による外来・入院における呼吸器リハビリや、近年では呼吸器診療に欠かすことの出来ない吸入薬に対する患者指導も積極的に行っています。また睡眠時無呼吸症候群に対しての終夜睡眠ポリグラフ検査及びCPAP療法の導入にも対応しております。当院では急性期から慢性期まで幅広い呼吸器診療を心がけています。

主な検査

〈気管支鏡検査〉

気管支内視鏡関連認定施設として、気管・気管支病変及び肺内病変に対して、年間100例程度の気管支鏡検査を行っております。ほぼ全例鎮静薬の投与下に検査を行うことによって苦痛を出来る限り与えないように心がけています。原則1泊2日の入院で検査を行います。

主に腫瘍性病変に対しての経気管支肺生検・擦過細胞診、びまん

性肺疾患に対しての気管支肺泡洗浄検査などを行っています。また適応症例に対しての気管支充填剤(EWS)の留置なども行っており幅広い疾患に対応しています。オリンパス社製の最新ビデオスコープ(290シリーズ)及び超音波システム(ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法)が導入されており優れた診断精度での検査が提供出来るよう努めています。コンベックス走査式超音波気管支鏡(BF-UC290F)を導入したことにより縦隔リンパ節を含めた気管支周囲組織の超音波気管支鏡下吸引針生検(EBUS-TBNA)が実施可能となり、気管支鏡検査における適応疾患がさらに拡大しています。

〈局所麻酔下胸腔鏡検査〉

一般的な胸水検査では診断をつけることが出来ない胸水に対して局所麻酔下での胸腔鏡検査を施行しています。胸腔内の観察及び壁側胸膜の生検・細胞診を行うことにより原因診断を行っています。主に癌性胸膜炎・悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎などの診断に有用です。

〈終夜睡眠ポリグラフ検査〉

毎週水曜日に1泊2日の個室入院により終夜睡眠ポリグラフ検査を行っています。睡眠時無呼吸などの睡眠障害に対する精密検査を行います。検査目的の紹介は内科外来にて随時受け付けています。

取り扱う主な対象疾患

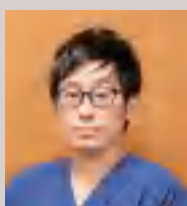
- 呼吸器感染症(新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、急性気管支炎、市中肺炎、医療・介護関連肺炎、院内肺炎、肺膿瘍、肺結核、肺非結核性抗酸菌症、肺真菌症)
- 慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎)
- アレルギー・免疫疾患(気管支喘息、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、サルコイドーシス、ANCA関連血管炎、過敏性肺炎、好酸球性肺炎)
- 間質性肺炎疾患(特発性間質性肺炎：特発性肺線維症、特発性非特異性間質性肺炎、特発性器質化肺炎など・膠原病関連間質性肺炎・薬剤性肺炎)
- 肺腫瘍(原発性肺癌、転移性肺腫瘍、肺良性腫瘍、胸膜中皮腫、縦隔腫瘍)
- 胸膜疾患(胸膜炎、胸水、膿胸、気胸)
- 慢性咳嗽(咳喘息、アトピー咳嗽、後鼻漏、喉頭アレルギー)
- 呼吸不全(1型・2型呼吸不全、結核後遺症、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気)
- 職業性肺疾患(じん肺、石綿肺)
- 睡眠時無呼吸症候群

など

令和6年度呼吸器内科に係る診療実績

項目	実績数(名)	1日平均患者数
外来患者数	4,297	17.7
入院患者延べ数	9,050	24.8

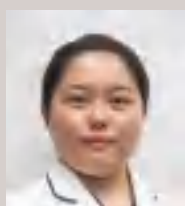
スタッフ紹介



呼吸器内科主任部長
森 雄亮
もり ゆうすけ



呼吸器内科副部長
小松 正弥
こまつ まさや



呼吸器内科
芳中 陽菜
よしなか ひな

循環器内科

診療科の紹介

当科では、すべての循環器疾患において「患者さんに科学的根拠に基づく質の高い最善の医療を安全に提供する」ことを第一とし診療を行っております。当院には救命救急センターが併設されており、24時間救急診療が可能な体制を整えております。北九州地域の患者さん・医療機関の先生方のニーズに応え、信頼を得られるよう努力して参ります。

診療科の特徴

令和4年度から常勤医3名の診療体制となり、狭心症や急性心筋梗塞、末梢動・静脈疾患に対し待機のみならず緊急カテーテル治療や徐脈性不整脈に対するペースメーカー手術を行っております。令和6年5月にはバイブレーション血管撮影装置 (Azurion2.2(L7))が新規導入され、カテーテル検査や治療において造影剤と被ばく線量の低減(従来のシングルプレーン装置との比較では造影剤は半量、被ばく線量は4分の1程度まで減少)に効果を発揮しています。特に高齢の患者さんにおいては慢性腎臓病を高頻度に合併しており、新規血管撮影装置の多大な恩恵が認められています。

令和7年4月から常勤医4名(全員循環器専門医)へ増員となり、うち1名は不整脈専門医で、5月から本格的にカテーテルアブレーション治療を開始することとなりました。

胸痛や労作時息切れ、呼吸困難だけでなく、徐脈や頻脈など不整脈疾患が疑われる患者さんがおられましたら是非ご紹介賜りますようよろしくお願い申し上げます。

取り扱う主な疾患

- 心不全(急性・慢性)
- 冠動脈疾患(狭心症、急性・陳旧性心筋梗塞)
- 心筋疾患(肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症(心アミロイドーシス、心サルコイドーシス、ファブリー病))
- 弁膜症(大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症)
- 不整脈(心房粗動・細動、徐脈性・頻脈性不整脈、期外収縮)
- 大動脈疾患(胸部・腹部大動脈瘤、大動脈解離)
- 末梢動・静脈疾患(閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄症、深部静脈血栓症)
- 肺循環疾患(急性肺血栓塞栓症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症)
- 高血圧症(二次性高血圧症)や脂質異常症(家族性高コレステロール血症) など

令和6年度 診療実績

項目	総数(名)
外来受診総数(1日あたり平均数)	2,854(11.7)
入院総数(1日あたり平均数)	6,771(18.6)
心不全入院患者数	174

項目	総数
心臓カテーテル検査	158
冠動脈カテーテル治療()は緊急症例	78(16)
ペースメーカー植え込み術()は電池交換術	30(6)
カテーテルアブレーション	3
植え込み型心電計	1
末梢動脈カテーテル治療	6
腎動脈ステント治療	0
心筋生検	1
下大静脈フィルター留置	3

項目	総単位数
入院心臓リハビリ単位数(1月あたり単位数)	3,681(307)
外来心臓リハビリ単位数(1月あたり単位数)	608(51)
心臓リハビリ総単位数(1月あたり単位数)	4,289(357)

スタッフ紹介



循環器内科主任部長
津田 有輝
つだ ゆき



循環器内科部長
大江 学治
おおえ ひさはる



循環器内科部長
屏 壮史
へい そうし



循環器内科部長
中村 圭吾
なかむら けいこ

小児総合医療センター

診療科の紹介

当センターは平日日中の一般診療及び各種小児専門医療を行うとともに、福岡県北九州地域、および近隣市町村地区における小児救急センターとして位置づけられています。北九州地区の広域の子どものあらゆる救急医療に対応するため、あらゆる他科と協力体制を有し、1次から3次までの救急患者を24時間365日受け入れる体制を維持しています。児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院でもあり、児童虐待の早期発見・早期介入と予防可能な事故の減少を目指します。

診療科の特徴（強みや新たな取り組み等）

小児総合医療センターの特徴

- ①県内随一の豊富な症例により経験を積んだ子どもの総合医が診療
- ②多彩な専門領域による迅速な診断と最良の治療の提供：
臨床超音波、血液・腫瘍、遺伝、発達、循環器
アレルギー、腎臓 他
- ③24時間365日対応可能な小児救急センター
全ての子どもを受け入れます。
- ④虐待拠点病院としての役割と地域支援体制の充実
多機関連携による家族と子ども支援委員会の活動

取り扱う主な対象疾患

■小児一般

各種感染症、腸重積症、急性虫垂炎、熱性けいれん、身体各部の外傷など

■アレルギー

食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、慢性蕁麻疹、薬剤アレルギーなど

■腎臓

検尿異常、ネフローゼ症候群、腎炎、尿路感染症、先天性腎尿路異常、高血圧症、糖尿病など

■循環器

川崎病、不整脈、先天性心疾患（カテーテル治療や手術が必要な症例は他院へ紹介しております）、心筋症など

■内分泌

成長障害、甲状腺疾患など

令和6年度 診療実績（手術・検査数等）

小児科専門医数	22名
認定指導医数	12名
他施設からの受け入れ研修医数	11名
製鉄記念八幡病院	7名
戸畑共立病院	2名
福岡新水巻病院	2名
小児科年間外来数	44,034名(2024年度)
小児科年間入院数	22,781名(2024年度)
夜間・休日受診者数	22,576人
夜間・休日入院者数	1,208人
小児科救急車台数	1,093台

小児総合医療センター

｜ スタッフ紹介 ｜



副院長
小児総合医療センター長
天本 正乃
あまもと まさの



統括部長
高野 健一
たかの けんいち



小児科主任部長
石橋 紳作
いしばし しんさく



小児血液・腫瘍内科主任部長
安井 昌博
やすい まさひろ



小児科主任部長
小林 匡
こばやし まさし



小児血液・腫瘍内科部長
稲垣 二郎
いながき じろう



小児血液・腫瘍内科部長
本田 裕子
ほんだ ゆうこ



小児科部長
富田 一郎
とみた いちろう



小児科部長
小児臨床超音波センター長
小野 友輔
おの ゆうすけ



小児科部長
八坂 龍広
やさか たつひろ



小児神経内科部長
福井 香織
ふくい かおり



小児科部長 救急科部長
小児救急センター長
福政 宏司
ふくまさ ひろし



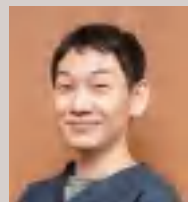
小児科部長
長嶺 伸治
ながみね しんじ



小児科部長
中野 慎也
なかの しんや



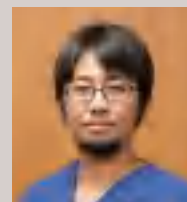
小児科部長
中野 珠菜
なかの たまな



小児血液・腫瘍内科部長
松石 登志哉
まついし としや



小児科部長
藤崎 徹
ふじさき とおる



小児科部長
森吉 研輔
もりよし けんすけ

｜ スタッフ紹介 ｜



小児科部長
江口 啓意
えぐち ひろい



小児科部長
吉田 峻
よしだ しゅん



小児科
今村 徳夫
いまむら のりお



小児科
村上 知恵
むらかみ ちえ



小児科部長
沖 剛
おき たけし



小児科
小野 佳代
おの かよ



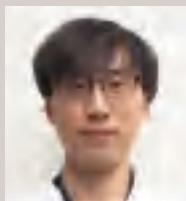
小児科専攻医
佐藤 ひかる
さとう ひかる



小児科専攻医
戸谷 凌太
とたに りょうた



小児科専攻医
兵頭 美咲
ひょうどう みさき



小児科専攻医
龍 正一郎
りゅう しょういちろう

小児血液・腫瘍内科

はじめに

当院小児科では、2018年4月に小児がんを専門的に診療する、小児血液腫瘍・造血細胞移植センターを立ち上げ、2021年4月より、小児血液・腫瘍内科を標榜しました。2020年から世界を席卷した新型コロナウイルス感染禍の影響を受け、新規診断患者数が伸び悩むことになりましたが、そのような中で当科は日本小児血液・がん学会および日本血液学会の専門医研修施設として認定されており、同学会や日本造血・免疫細胞療法学会(旧：日本造血細胞移植学会)の専門医や指導医資格をもつ4名の小児科医師を中心に診療を行い北九州地域の血液・腫瘍患者に対する治療をリードしています。また、北九州市において2施設しかない日本輸血・細胞治療学会の認定医制度指定施設のひとつとしても認定されており、2022年12月には骨髓バンクドナーからの骨髓採取も可能となり健康人ドナーから骨髓採取を行っています。2021年には本院で初めての血縁者間骨髓移植も施行し、現在は非血縁者間骨髓・末梢血幹細胞移植および臍帯血移植の施設認定も受け、これらの造血細胞移植も可能となっています。

小児がんは致死性の疾患であると同時に希少疾患であり、治療法に関しては標準治療として確立されている治療法や患者さんへの利益が大きいと考えられる臨床試験での治療など、疾患の種類や病期によって最も適切な治療法を選択しています。上述のような再発・難治性の患者さんに対しては、適応を慎重に判断したうえで造血細胞移植を行っています。

小児がんの患者さんは、抗がん剤や免疫抑制剤の治療により容易に免疫不全状態に陥り、重症感染症を発症するリスクを負っていますが、当センターでは小児科病棟内の10床の個室からなる清浄度の高いprotective environment(防護環境、慣例的にクリーンエリアと呼んでいます)内で化学療法を行っています。そのうち2床は、白血球数や免疫機能が極度に低下する造血細胞移植に対応した規格になっています。

小児がんの治療は長期にわたり、様々な身体的・精神的苦痛や社会的困難が伴います。当科では、患者さんとご家族の負担を少しでも軽減できるよう、医師、看護師だけではなく薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、社会福祉士、保育士、臨床心理士、子ども療養支援士、院内学級講師、その他の多くのスタッフが協力してチーム医療を行っています。

当科の沿革

- 2018年 04月 「日本小児血液・がん学会専門医研修施設」に認定
- 2018年 12月 新病院小児科病棟内に protective environment (通称クリーンエリア)開設
- 2019年 06月 第1例目の造血細胞移植(血縁者間末梢血幹細胞移植)施行
- 2020年 07月 「移植後長期フォローアップ外来」の開始(看護部による)
- 2020年 10月 「JCCG 小児固形腫瘍観察研究」参加
- 2021年 04月 北九州市立病院機構より「小児血液・腫瘍内科(血液・腫瘍科)」標榜の認可
- 2021年 04月 「日本血液学会専門医研修施設」および「日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設」に認定
- 2022年 12月 「日本骨髓バンク非血縁者間骨髓採取施設」に認定
- 2023年 03月 「日本骨髓バンクおよび日本臍帯血バンクを介した非血縁者間骨髓・末梢血幹細胞・臍帯血移植施設」に認定

今後の展望

2022年12月末に日本骨髓バンクの非血縁者間骨髓採取施設の認定を受けました。また日本骨髓バンクを介した非血縁者間骨髓・末梢血幹細胞移植および臍帯血バンクを介した非血縁者間臍帯血移植の施設認定も2023年に受けることができたためこれらの移植が可能となり難治性血液疾患の患者への治療選択肢が広がっています。今後は症例数の蓄積が認定に必要ですが、非血縁者間末梢血幹細胞採取施設の認定も目指していきたいと考えています。

スタッフ紹介



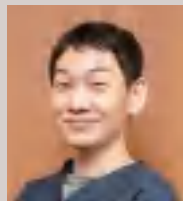
小児血液・腫瘍内科
主任部長
安井 昌博
やすい まさひろ



小児血液・腫瘍内科部長
稲垣 二郎
いながき じろう



小児血液・腫瘍内科部長
本田 裕子
ほんだ ゆうこ



小児血液・腫瘍内科部長
松石 登志哉
まついし としや

泌尿器科

診療科の紹介

泌尿器科悪性腫瘍、良性疾患に対する診療を行っています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行えるよう心がけております。また、罹患頻度の高い尿路結石に対しては、迅速に手術治療を行い、出来るだけ早く患者様の苦痛を和らげるよう努めています。当院の特色である小児診療も積極的に行っており、小児泌尿器科領域での外科手術を施行しています。泌尿器科救急疾患にも24時間迅速に対応します。

2019年4月より、常勤の泌尿器科医が1名増員となり、2名体制となりました。より柔軟な対応が可能となり、手術件数も順調に増加しています。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結出来るように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

診療科の特徴（強みや新たな取り組み等）

■内視鏡的デフラックス注入療法

膀胱尿管逆流症に対する新しい手術として、内視鏡的デフラックス注入療法を2021年6月より開始しました。少しずつ症例が増え、20例ほど施行致しましたが、全例良好な治療経過です。症例数は福岡県でもトップクラスです。従来の開腹手術と比較し低侵襲な手術であり、患者様の満足度も高いと考えます。

■尿路結石治療

尿路結石に対して、ESWL（体外衝撃波結石破碎術）とTUL（経尿道的結石碎石術）を積極的に行っています。出来るだけお待たせすることなく、迅速に行うよう心がけています。

■前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療

前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療（223-Ra（商品名：ゾーフィグ））を行っています。福岡県内でも上位の症例数を経験しております。

取り扱う主な対象疾患

■泌尿器科悪性疾患

腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎癌、等

■泌尿器科良性疾患

尿路結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱、尿路感染症、等

■小児泌尿器疾患

停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎、等

■泌尿器救急疾患

尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉・膀胱タンポナーデ、精巣捻転、嵌頓包茎、等

令和6年度 診療実績（手術・検査数等）

外来患者数	5,290人
入院患者数	249人
（平均入院患者数9.8人/日、平均在院日数 13.2日）	
手術件数	183件
ESWL件数	72例

スタッフ紹介



泌尿器科主任部長
松本 博臣
まつもと ひろあき



泌尿器科副部長
野間 悠太郎
のま ゆうたろう

皮膚科

診療科の紹介

月～金曜日の8時30分から11時までが受付時間です。2診体制で待ち時間の短縮に努めています。紹介の患者さんの初診は皮膚科専門医が担当します。紹介状をご持参いただければ予約なしでも診療可能ですが、お電話やFaxで事前にご予約をいただいた場合は、来院前に事務手続きや前治療の把握等が行えますので、優先してご案内することが出来ます。

診療科の特徴（強みや新たな取組み等）

問診や視診を十分に行い、必要に応じて皮膚生検などの検査を提案し、なるべく正確な診断が得られるように努めています。また、他科の医師とも緊密に連携し、質の高い医療を行っていくことを心がけています。

当院は乾癬やアトピー性皮膚炎などの生物学的製剤使用承認施設です。一人一人の重症度、生活への影響を考慮して適切な治療法を提案するようにしています。在宅自己注射が可能な製剤もあり、注射指導に力を入れています。調剤薬局とも連携をとり患者さんが安心して治療が出来るようサポートしています。

自費診療では、带状疱疹ワクチンと難治性の円形脱毛症（慢性期）や尋常性疣贅に適応のあるSADBEによる局所免疫治療を行っています。

取り扱う主な対象疾患

皮膚疾患全般を取り扱っています。皮膚腫瘍の診断・局所麻酔手術、感染症に対する治療、免疫抑制剤による治療の他に、生物学的製剤（重症のアトピー性皮膚炎、慢性特発性蕁麻疹、乾癬、掌蹠膿疱症、化膿性汗腺炎）やJAK阻害薬（重症のアトピー性皮膚炎、円形脱毛症、乾癬）を用いた治療も積極的に行っております。

令和6年度 診療実績

皮膚生検件数	190件/年
皮膚、皮下腫瘍摘出術件数	39件/年
皮膚悪性腫瘍切除術	5件/年
在宅自己注射新規導入症例数	59件/年
光線（紫外線）療法	307件/年
生物学的製剤治療症例数	
アトピー性皮膚炎（デュピクセント、ミチーガ他）	158人/年
蕁麻疹（ゾレア、デュピクセント）	18人/年
乾癬（掌蹠膿疱症、化膿性汗腺炎含む）	55人/年
JAK阻害薬治療症例数	
オルミエント（アトピー性皮膚炎、円形脱毛症）	7人/年
リンヴォック（アトピー性皮膚炎、関節症性乾癬）	16人/年
リットフーロ（円形脱毛症）	2人/年
ソーティクツ（尋常性乾癬）	6人/年

スタッフ紹介



皮膚科副部長
古河 裕紀子
ふるかわ ゆきこ



皮膚科
村尾 玲
むらお れい



皮膚科
赤崎 真子
あかさき まこ

眼 科

診療科の紹介

5類になったとはいえ、まだコロナの感染はおさまりません。感染対策をやりながら、診療を続けています。眼科医一名、視能訓練士一名体制であり、患者さんにはご迷惑をおかけすることもあります、一人ひとりの患者さんと大事に接することを心がけています。

患者さんのことをよく把握している三人の看護師が交替で、また医療クラークもついてくれるので、よい診療体制が出来ていると思っています。

診療科の特徴（強みや新たな取り組み等）

手術は入院にて原則、火曜日の終日と水曜日の午後行っています。

■白内障手術は1泊2日から3泊4日の入院

■硝子体手術は4泊5日から7泊8日の入院

状況に応じて柔軟に対応しています。スタッフは少人数ですが、丁寧な診療を心がけています。全身疾患をお持ちの方も内科や外科に相談しながら、安心して手術を施行しています。

認知症の方は全身麻酔での手術が可能です。

取り扱う主な対象疾患

■白内障、緑内障、糖尿病網膜症、その他の眼底疾患

■他科との関連では、外傷、中でも眼窩底骨折による眼球運動障害や眼底疾患

■ステロイド治療中のお子さんなど

診療実績（手術・検査数等）

水晶体再建術	79件
硝子体手術	2件
虹彩整復術、瞳孔形成術	3件
その他	12件

スタッフ紹介



眼科主任部長
板家 佳子
いたや よしこ

精神科

診療科の紹介

精神科では広く精神科一般の病気を診ています。妄想や幻覚で苦しんでいる人や気持ちが落ち込んで辛い人、職場の悩みを抱えて体調不良に悩む人、夜眠れなくて困っている人等、症状やその程度は様々です。

病名としては統合失調症、うつ病、不安症、不眠症、適応反応症、発達症、認知症などが主ですが、一口に精神科の病気といってもひとりひとり症状も治療法も違ってきます。したがってその人に一番良い治療法を目指しています。

また、外来患者さんだけでなく、当病院に入院中の他科患者さんの心のケアにもあたっています。なお当院には精神科の病床はありませんので、入院が必要な場合は他の精神科病院を紹介しています。

以上午前中の精神科外来、予約制の物忘れ外来、午後からの他科入院患者さんの精神面のケア（コンサルテーション・リエゾン精神医学）を主な業務としています。

外来は再来においては完全予約制ではありません。このため受診者数は日によってばらつきがあります。そのため場合によっては思いがけずお待たせすることもあります。新患は原則として完全予約制です。

取り扱う主な疾患

統合失調症、双極症、うつ病、不安症、不眠症、発達障害、適応反応症、など。

診療科の特徴

令和2年6月もの忘れ外来を始めました。当科での心理検査と放射線科の画像検査をもとに、早期に認知症の診断・治療が出来るよう努めています。下記に認知症診断のため当院でできる画像検査を紹介しています。

■VSRAD検査

MRI検査です。早期アルツハイマー病（アルツハイマー型認知症）では、脳萎縮が海馬で著明であるため、脳全体と海馬の萎縮の程度を一定値（ボクセル値）へ変換した後、健常人のデータベースを対照として解析することで、海馬領域が特に障害されていないかを判定します。身体的侵襲なしに比較的手軽に出来るようになりました。早期アルツハイマー型認知症だけでなく、レビー小体型認知症などのその他の診断に役立ちます。

■脳血流シンチ検査

半減期の短い放射線同位元素で標識した薬剤を静脈注射して行う検査です。脳の血流分布の異常を調べてMRIの結果と重ね合わせることで認知症の鑑別をより進めることが出来ます。

■ダツトスキャン検査

検査薬を静脈注射後撮像し脳内のドーパミン神経の異常を評価します。レビー小体型認知症やパーキンソン病の診断に威力を発揮します。

当科では診療にこれらの画像所見を加えることでより厚みのある診療につなげるよう努めております。たとえば臨床診断と画像診断が一致しない場合もございますが、そのことが貴重なデータであると言え、今後のことに対応していくかを患者本人やご家族と相談しながら話合って参ります。

診療実績（手術・検査数等）

	令和5年度	令和6年度
初診	127人	97人
再診	2,731人	3,070人
紹介患者	114人	89人
逆紹介患者	52人	114人

スタッフ紹介



精神科主任部長
石井 浩喜
いしい ひろき

婦人科

診療科の紹介

婦人科は医師1名で診療にあたっています。外来での待ち時間短縮のため、完全予約制で行っています。

女性は思春期から性成熟期、妊娠・出産、そして更年期・老年期とライフステージを通してホルモン分泌がダイナミックに変化し、それはしばしば体調や生活に影響を与えています。女性特有の症状でお悩みになっている方が、身体的にも精神的にも少しでも楽になれるよう、専門性を生かした診療を心がけております。

初診の際は、かかりつけのクリニックや病院・医院(産婦人科の必要はありません。)で相談され、担当医の先生に紹介状の作成と受診予約(当院地域医療連携室経由)を取って来院されてください。特にかかりつけがない場合でも受診可能ですが、初診時選定療養費(7,700円)が別途かかりますので、ご了承ください。また初診の方は、予約優先のため診察が遅い時間帯になりますのでご理解ください。

取り扱う主な対象疾患

- 子宮筋腫
- 子宮頸管ポリープ
- 子宮内膜ポリープ
- 卵巣嚢腫
- 子宮腺筋症
- 子宮内膜症
- 多嚢胞性卵巣症候群
- 無月経(原発性・続発性)
- 生殖器の先天性異常
- 更年期障害
- 骨盤臓器脱(ペッサリーリングによる治療 手術は不可)
- 不妊症(子宮卵管造影検査)
- 子宮頸部異形成
- バルトリン腺嚢胞・膿瘍(造袋術)
- 月経困難症(月経痛)の治療
- 性感染症の診断と治療
- 性虐待、性被害(モーニングピルの処方不可)

診療科の特徴(強みや新たな取り組み等)

■婦人科内分泌および女性のヘルスケア

初経を認めない原発性無月経や、月経がまれにしか起こらない稀発月経、月経が止まってしまう続発性無月経、若い年代からの月経痛などの疾患は、早期の対応が望まれており、適切な対処と治療を行うことにより将来のヘルスケアに関連するといわれています。また、月経量が多いことによる鉄欠乏性貧血を対処することで、日常生活のメンタルヘルスをよりよくすると考えられています。また、更年期のトラブルを適切に対処することにより、高齢期に心身機能をより良い状態で迎えられることが期待出来ます。

以上のような個々の状態を理解し対処出来るよう心がけています。

■子宮頸がん2次検診

人間ドックなどで行った子宮頸がん検診で精密検査が必要となった症例に対して、精密検査を行っています。

子宮頸部異形成の精密検査方法はコルポスコピー(拡大鏡)検査によって、異常の有無や程度を調べ、異常な部位を狙って組織を採取する病理組織検査を行います。その結果により治療方針が決まります。

当院では子宮頸部中等度異形成でハイリスクのHPVに感染している場合は、CO₂レーザー蒸散術(入院・2泊3日)を行っています。

■バルトリン腺嚢

基本的には外来でバルトリン腺嚢胞に対しては開窓術などを行っています。

2024年度 診療実績(手術・検査数等)

外来手術	
子宮頸管ポリープ摘出術	20件
薬物放出子宮内システム(ミレーナ®)処置	5件
バルトリン腺嚢胞造袋術	6件
入院手術	
子宮頸部レーザー蒸散術	10件
尖圭コンジローム切除術(レーザー蒸散術も含む)	5件
外来検査	
子宮卵管造影検査	3件

スタッフ紹介



婦人科主任部長
今福 雅子
いまふく まさこ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

診療科の紹介

当科の担当医は頭頸部がん専門医を取得しており、頭頸部がんの外科治療を得意としております。中耳炎・副鼻腔炎・扁桃炎・難聴・めまい・顔面神経麻痺・鼻出血などの一般的な耳鼻咽喉科疾患の診療に加え、緊急気管切開が必要な急性喉頭蓋炎や深頸部膿瘍・顔面外傷・頭頸部腫瘍(耳下腺腫瘍・咽頭がん・喉頭がん・甲状腺腫瘍等)・嚥下障害などの頭頸部外科領域疾患の治療はお任せください。小児からご年配の方まで男女問わずご縁のあった患者さまがみな、困りごとを解決され、人生がよりよいものとなりますように。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

外来診療の受付は平日11時までですが、緊急を有する場合は午後からでも診療致します。得意とする手術は甲状腺腫瘍や耳下腺腫瘍や喉頭がんなどの頭頸部腫瘍を扱う頭頸部外科手術ですが、口蓋扁桃摘出術、喉頭マイクロ術、内視鏡下鼻副鼻腔手術、鼓膜形成術など基本的な耳鼻咽喉科手術ももちろん受けることが可能です。当科の特徴は耳鼻咽喉科指導医も取得しているベテラン医師により執刀されるため、安心して手術を受けることが出来ます。また当院は小児科に特化した市中病院として役割を果たしてきた長い歴史があり、小児の睡眠時無呼吸症候群、急性中耳炎などの炎症性疾患、外傷の治療にも力を入れております。

取り扱う主な対象疾患

細菌感染などによる炎症疾患、外傷、出血、腫瘍、頸部リンパ節腫脹などさまざまな疾患を診察可能です。具体的に一部を下記にまとめます。

- 耳の疾患 中耳炎、外耳炎、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺、耳鳴り
- 鼻の疾患 副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻副鼻腔腫瘍
- 咽頭の疾患 扁桃炎、咽頭炎、咽頭異物、咽頭腫瘍
- 喉頭の疾患 喉頭炎、声帯麻痺、声帯ポリープ、喉頭腫瘍
- 頸部の疾患 甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、頸部リンパ節炎、頸部リンパ節転移
- 頭頸部腫瘍 舌がん、咽頭がん、喉頭がん、唾液腺がん、甲状腺がんなど

このように多岐にわたる疾患の治療が可能です。

また若い女性の方は甲状腺腫瘍の外科治療で首の傷が気になると思われる方も多いのではないのでしょうか？当科では内視鏡下甲状腺手術(VANS法)が可能であり、首に傷の残らない治療を行うことが出来ます。まずはお気軽にご相談ください。

診療実績(手術・検査数等)

外来患者数	1,933
入院患者数	372
手術件数	106

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
主任部長
大久保 淳一
おおくぼ じゅんいち



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
部長
高橋 梓
たかはし あずさ

放射線科

診療科の概要

当科は現在放射線診断専門医2名で画像診断とIVR(インターベンショナルラジオロジー)を中心に診療を行っています。

診療科の特徴

画像診断は、CT検査、MRI検査、RI検査、マンモグラフィなどを行っています。CT検査では、高速ヘリカルスキャンにより鮮明で詳細な画像が得られます。またワークステーションにより冠動脈や腎動脈の狭窄、脳動脈瘤や大動脈瘤、骨折等の3D画像を容易に得ることが出来ます。RI検査では、SPECT画像を、MRI検査では、MR angio画像を得ることが出来ます。CT、MRI、RIに関しては予約制で、他院からの依頼も受けています。

IVRは血管系では一般的なTAEやPTAから比較的稀なB-RTO、リザーバー留置術まで、非血管系では、PTGBD、PTCDや膿瘍ドレナージ、生検、胆道ステント挿入等を施行しています。

取り扱う主な対象疾患

- 画像診断の対象となる疾患一般…腫瘍性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、外傷など
- 肝細胞癌を始めとした悪性腫瘍に対する化学動注塞栓療法
- 乳癌など悪性腫瘍に対する画像ガイド下針生検

スタッフ紹介



放射線科主任部長
今福 義博
いまふく よしひろ



放射線科部長
神崎 修一
こうざき しゅういち

麻酔科

診療科の概要

麻酔科は、日本専門医機構認定の麻酔科専門医3名(うち2名は麻酔科学会認定麻酔指導医)を含む4名の常勤医と、非常勤の麻酔専門医で構成され、手術麻酔(周術期管理)および外来診療を行っています。外来は週2回(月曜・木曜の午前)、主にペインクリニック(痛みの外来)として診療を行っています。

診療科の特徴

当院では、小児(乳幼児)から高齢者まで幅広い年齢層の患者さまに対応し、救急医療にも積極的に取り組んでいます。麻酔科はその一翼を担い、24時間365日体制で緊急手術を含むあらゆる症例に対して、手術スタッフと連携しながら「より安全に、より快適に」をモットーに周術期管理を実施しています。

新病院への移転に伴い導入された最新の医療機器・モニタリングシステムを活用し、安全かつ質の高い麻酔管理を提供しています。また、多職種による術後疼痛管理チームの活動も開始され、術後の痛みへの対応や緩和ケアにも力を入れています。麻酔業務以外にも、他診療科と連携した疼痛治療や救急対応など、院内のさまざまな医療場面に関与しています。

取り扱う主な疾患

手術麻酔：全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔などによる手術全般(狭義の局所麻酔を除く)

外来診療：

- ・ 帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、術後の遷延性疼痛、複合性局所疼痛症候群(CRPS)、腰下肢痛、がん性疼痛など痛みや痺れに関する疾患
- ・ 末梢性顔面神経麻痺、突発性難聴
- ・ 四肢の血行障害など

診療実績(手術・検査数等)

- ・ 手術室全手術件数：2,201件
- ・ 麻酔科管理手術件数：1,505件
- ・ 麻酔科管理麻酔件数：1,484件(※複数科による同時手術を含む)
(全身麻酔件数：1,470件)

麻酔業務に加え、手術室では重症患者に対するモニタリング下鎮静(MAC)や、小児の穿刺困難症例に対する髄腔内投薬なども行っています。

スタッフ紹介



麻酔科主任部長
集中治療室室長
金色 正広
かないろ まさひろ



麻酔科主任部長
手術室室長
齋藤 将隆
さいとう まさたか



麻酔科部長
齋藤 美保
さいとう みほ



麻酔科副部長
松原 光希
まつばら こうき

救急科

診療科の紹介

救急科医師を中心に外科系、内科系の救命救急センター当番医師の協力を仰ぎながら、救急診療にあたっています。日中の救急診療は、救急科専門医3名、後期専攻医3名、救急科研修医1名の7名で行っています。普段の救急診療のみならず、救急救命士の指導、地域メディカルコントロール体制への関与に従事しています。

診療科の特徴（強みや新たな取組み等）

外科を中心に、整形外科、脳神経外科、形成外科とも連携しながら、北九州市西部地域のさまざまな外傷疾患に対応しています。

免震構造の屋上ヘリポートを有し、北九州地域で発生した広域搬送事案において、消防防災ヘリやドクターヘリの受入を積極的に行っています。

北九州地域の災害基幹病院として、DMAT（災害医療派遣チーム）を有して、日頃から活動しています。

取り扱う主な対象疾患

- 重症外傷、多発外傷
- 院外心肺停止
- 消化管出血
- 脳血管障害
- 急性冠症候群

スタッフ紹介



救急科主任部長
呼吸器外科主任部長
救命救急センター長
井上 征雄
いのうえ まさお



救急科部長
平松 俊紀
ひらまつ としき



救急科部長
小児科部長
小児救急センター長
福政 宏司
ふくまさ ひろし



救急科部長
室屋 大輔
むろや だいすけ



救急科部長
北村 拓也
きたむら たくや



救急科副部長
岡本 健司
おかもと けんじ



救急科副部長
外科副部長
金野 剛
こんの たけし

歯 科

診療科の紹介

歯科は、歯科医師1名、歯科衛生士1名で診療を行っています。少人数で診療を行っておりますので、受診時は必ずご予約いただくこと、無断キャンセルをしないこと、予約時間に遅れる時は電話をいただくこと、をお願いしています。歯科の担当医は公益社団法人日本小児歯科学会認定小児歯科専門医です。成人につきましても、周術期等の口腔ケア、骨代謝回転を抑制する薬剤使用前の顎骨壊死リスク評価等を行っています。

診療科の特徴（強みや新たな取組み等）

小児歯科診療（定期検診、虫歯の治療、歯の外傷に対する処置など）に力を入れています。また、安定期の妊婦さんを対象に出産に向けた口腔ケアを行い、生まれてくるお子さんが虫歯にならないために留意すべき点などをお伝えします。乳幼児期は摂食機能や構音機能を獲得する大事な時期ですので、離乳相談等歯科の立場から口腔機能獲得のための支援を行います。発達障害や歯科治療に強い恐怖心をお持ちのお子様に対しては、個々の状況に応じて最適な治療方針をご相談させていただきます。小児を対象に全身麻酔下歯科治療を行います。

また、小児、成人を問わず、周術期等の口腔管理を行います。

取り扱う主な対象疾患

■小児に対して

- ・小児の口腔領域の発育をサポートするための健診
- ・歯科検診
- ・虫歯の治療
- ・全身麻酔下歯科治療

■成人に対して

- ・安定期の妊婦歯科検診
- ・歯周病の治療
- ・骨の代謝回転を抑制する薬剤を使用する前の顎骨壊死リスク評価
- ・睡眠時無呼吸症候群や歯ぎしりに対するマウスピース作成

■小児、成人に対して

- ・外傷（歯がグラグラする、歯が折れた、等）に対する治療
- ・周術期等口腔管理（口腔ケア）

診療実績（手術・検査数等）

- ・外来患者数約2,100人
- ・小児の全身麻酔下歯科治療（R.6年11月開始）7例
- ・小児科医師からの御依頼による、小児救急患者（外傷）に対する夜間歯科診療7例（うち3例は電話や画像等による相談）

スタッフ紹介



歯科主任部長
渡辺 幸嗣
わたなべ こうじ

臨床検査科

診療科の紹介

臨床検査科は2019年より正式な標榜科としてスタートいたしました。現在常勤医師1名、非常勤病理医師5名で運営し、診療内容は臨床検査に関わる各種診断、検査、管理、コンサルテーション業務を主体に活動を行っています。病理診断に関する業務は産業医科大学第2病理学講座の協力、生理機能検査は関連各診療科医師に協力いただいています。

また各種の検査結果に基づき院内の感染制御、医療安全業務、労働安全衛生業務に協力しています。

診療科の特徴（強みや新たな取組み等）

2018年の臨床検査に関わる医療法等の改正により、各種検査に精度管理者を配置し、正確な検査結果を保証するとともに検査機器の日々の的確な管理が求められるようになりました。現在の医療では、数年前と比べても疾患の細分化は進んでおり、治療はその細分化された診断に基づき行われます。検査機器もそれに併せて日々進歩し、正しい検査結果無くして正確な診断や治療は困難な時代を迎えています。

救急医療の現場では迅速で正確な検査結果が必要とされる一方で、小児疾患、がん診療等においては慎重な取り扱いを必要とする遺伝子検査が必要となることがございます。常に病状や状況に合わせて、最適な医療を提供出来るように各診療科と連携し、積極的に診療をサポートしています。

〈令和6年度の新たな取組み〉

- 感染症検査の体制強化
- 輸血製剤の適正な管理体制の推進
- 廃血率低下
- 研修医教育

令和6年度も新型コロナウイルスをはじめとするさまざまな感染症への対応が求められました。当科では臨床検査技術課と連携し、必要に応じて複数のウイルスや細菌の同時検査が可能な「核酸多項目同時検出検査」により迅速に対応いたしました。また輸血業務では、血液製剤の適正使用に取り組んでおり、これまでの取組みが院内に浸透し、令和6年度は大幅な廃血率低下を達成することが出来ました。

教育面では、初期研修医指導の一環として、「臨床検査入門」「輸血実践トレーニング」等の講習を実施しています。さらに希望者には臨床検査科にて1ヶ月間の研修も行っており、令和6年度は、希望者2名に対して研修を実施いたしました。

今後も迅速な検査及び信頼されるコンサルテーション業務を通して、質の高い医療に貢献して参ります。

取り扱う主な対象疾患

- 一般、生化学、免疫・輸血、血液に関わる各種検体の検査、診断及び管理等
- 細菌、真菌及びウイルスに関わる同定、遺伝子解析検査等
- 病理診断及び検査（生検、手術材料に関する病理診断及び病理解剖等）
- 生理機能検査（心電図、超音波検査、肺機能検査、脳波検査等）
- 上記検査に関する診断、コンサルテーション
- 輸血関連製剤の適正使用に関するアドバイス

診療実績（手術・検査数等）

検査項目	検査実績（検査項目数）
一般検査	168,346
生化学検査（含、免疫・輸血）	603,701
血液検査	232,075
生理検査	17,503
細菌検査	29,396
時間外緊急検査	279,217
病理検査（生検・術材）	1,489（件数）
病理検査（術中迅速組織検査）	14（件数）
病理検査（細胞診）	1,317（件数）
病理解剖	1

スタッフ紹介



臨床検査科主任部長
木村 聡
きむら さとし

専門医・資格認定等一覧

専門医・資格認定等一覧

外科



院長
 消化器・肝臓病名誉センター長
岡本 好司

おかもと こうじ

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本肝胆脾外科学会高度技能名誉指導医
- ・日本肝臓学会専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本乳癌学会認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医
- ・日本Acute Care Surgery学会認定外科医
- ・日本血栓止血学会血栓止血認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医・外科周術期感染管理教育医



統括部長
木戸川 秀生

きどがわ ひでお

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医
- ・統括DMAT登録者



小児外科主任部長
新山 新

しんやま しん

- ・日本小児外科学会専門医
- ・日本外科学会専門医



外科主任部長
山吉 隆友

やまよし たかとも

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本外傷学会外傷専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医



消化器外科主任部長
 消化器・肝臓病センター長
野口 純也

のぐち じゅんや

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本肝臓学会専門医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医



外科部長
上原 智仁

うえはら としひと

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医



外科部長
又吉 信貴

またよし のぶたか

- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医



外科部長
沖本 隆司

おきもと たかし

- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器病学会消化器専門医
- ・日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医



外科
田上 貴仁

たがみ たかひと

専門医・資格認定等一覧

外科・救急科



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
救命救急センター長
井上 征雄

いのうえ

まさお

- ・日本外科学会専門医
- ・日本呼吸器外科学会認定登録医
- ・日本救急医学会専門医
- ・社会医学系専門医協会専門医・指導医
- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医
- ・統括DMAT登録者



救急科副部長
外科副部長
金野 剛

こんの

たけし

救急科



救急科部長
平松 俊紀

ひらまつ

としき

- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・日本集中治療医学会専門医
- ・日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
- ・日本中毒学会認定クリニカル・トキシコロジスト
- ・日本外傷学会外傷専門医
- ・死体解剖資格認定

救急科・小児科(兼務)



救急科部長
小児科部長
小児救急センター長
福政 宏司

ふくまさ

ひろし

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本集中治療医学会認定集中治療専門医

救急科



救急科部長
室屋 大輔

むろや

だいすけ

- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本肝臓学会肝臓専門医
- ・日本胆道学会認定指導医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本高気圧環境・潜水医学会高気圧医学専門医



救急科部長
北村 拓也

きたむら

たくや

- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・日本蘇生学会指導医
- ・日本旅行医学会認定医
- ・日本体力医学会健康科学アドバイザー
- ・日本医師会認定健康スポーツ医
- ・日本スポーツ協会公認スポーツドクター
- ・日本バラスポーツ協会障害者スポーツ医

救急科



救急科副部長
岡本 健司

おかもと

けんじ

内科



統括部長
内科主任部長
末永 章人

すえなが

あきひと

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本神経学会神経内科専門医・指導医

内科



内科
宮崎 三枝子

みやざき

みえこ

- ・日本内科学会認定内科医・指導医
- ・日本腎臓学会専門医
- ・日本透析医学会専門医
- ・多発性嚢胞腎協会PKD認定医
- ・日本骨粗鬆症学会
- ・日本尿酸学会

呼吸器内科



呼吸器内科主任部長
森 雄亮

もり

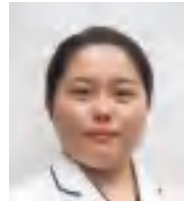
ゆうすけ

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ・日本呼吸器内視鏡学会専門医
- ・日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症専門医・指導医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・ICD制度協議会インфекションコントロールドクター認定医

呼吸器内科



呼吸器内科副部長
小松 正弥
こまつ まさや



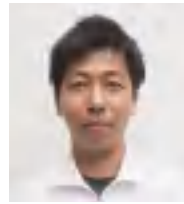
呼吸器内科
芳中 陽菜
よしなか ひな

循環器内科



循環器内科主任部長
津田 有輝
つだ ゆき

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本循環器学会循環器専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定医
- ・日本医師会認定産業医



循環器内科部長
大江 学治
おおえ ひさはる

- ・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- ・日本循環器学会循環器専門医
- ・日本不整脈心電学会不整脈専門医
- ・植込み型除細動器(ICD)/ペースキングによる心不全治療(CRT)研修修了
- ・着用型自動除細動器(WCD)処方資格



循環器内科部長
屏 壮史
へい そうし

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本循環器学会循環器専門医
- ・日本心エコー図学会SHD心エコー図認証医



循環器内科部長
中村 圭吾
なかむら けいご

- ・日本内科学会内科専門医
- ・日本循環器学会専門医

整形外科・リハビリテーション科



副院長
岡部 聡
おかべ さとし

- ・日本整形外科学会専門医・指導医・認定スポーツ医
- ・日本リウマチ学会



整形外科主任部長
リハビリテーション科主任部長
目貫 邦隆
めぬき くにたか

- ・日本整形外科学会専門医・指導医・認定リウマチ医・認定スポーツ医
- ・日本手外科学会専門医・指導医
- ・日本骨粗鬆症学会認定医



整形外科部長
田島 貴文
たしま たかふみ

- ・日本整形外科学会専門医・指導医
- ・日本手外科学会専門医・指導医
- ・リパース型人工肩関節資格修了
- ・DARTS人工手関節資格修了



整形外科部長
栗之丸 直朗
くりのまる なおあき

- ・日本整形外科学会専門医・指導医・認定スポーツ医・運動器リハビリテーション医
- ・日本骨粗鬆症学会認定医
- ・日本人工関節学会認定医



整形外科副部長
大久保 友貴
おおくぼ ゆうき

- ・日本整形外科学会専門医



整形外科副部長
堀之蘭 聡
ほりのその さとし

専門医・資格認定等一覧

脳神経外科



脳神経外科主任部長
高松 聖史郎

たかまつ せいしろう

- ・日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医
- ・日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医
- ・日本神経内視鏡学会技術認定医
- ・米国脳神経外科学会国際会員
- ・日本脳卒中の外科学会
- ・日本脳神経血管内治療学会
- ・日本頭蓋底外科学会
- ・日本神経減圧術学会



脳神経外科部長
藤 圭太

とう けいた

- ・日本脳神経外科学会脳神経外科専門医
- ・日本脳卒中学会脳卒中専門医

脳神経外科



脳神経外科副部長
岸本 拓也

きしもと たくや

形成外科



副院長
形成外科主任部長
田崎 幸博

たさき ゆきひろ

- ・日本形成外科学会形成外科専門医・形成外科領域指導医・皮膚腫瘍外科分野指導医・小児形成外科分野指導医
- ・日本熱傷学会専門医
- ・日本創傷外科学会専門医
- ・日本口蓋裂学会認定師（形成外科分野）

形成外科



形成外科部長
今村 禎伸

いむら よしのぶ

- ・日本形成外科学会形成外科専門医



形成外科副部長
古川 くるみ

ふるかわ くるみ

麻酔科



麻酔科主任部長
集中治療室室長
金色 正広

かない まさひろ

- ・日本麻酔科学会認定医・指導医
- ・日本専門医機構麻酔専門医
- ・日本医療機器学会認定MEDIC
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医



麻酔科主任部長
手術室室長
齋藤 将隆

さいとう まさたか

- ・日本麻酔科学会専門医・指導医
- ・日本集中治療医学会認定集中治療専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医



麻酔科部長
齋藤 美保

さいとう みほ

- ・日本麻酔科学会認定医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医



麻酔科副部長
松原 光希

まつばら こうき

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



耳鼻咽喉科・頭頸部外科主任部長
大久保 淳一

おおくぼ じゅんいち

- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医・指導医
- ・日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本甲状腺外科学会
- ・日本頭頸部癌学会
- ・日本内分泌外科学会
- ・耳鼻咽喉科臨床学会



耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
高橋 梓

たかはし あずさ

- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・補聴器相談員

眼科



眼科主任部長
板家 佳子
いたや よしこ

・日本眼科学会専門医

精神科



精神科主任部長
石井 浩喜
いしい ひろき

・日本精神神経学会専門医

放射線科



放射線科主任部長
今福 義博
いまふく よしひろ

・日本医学放射線学会放射線診断専門医・指導医
・日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医
・厚労省認定臨床研修指導医



放射線科部長
神崎 修一
こうざき しゅういち

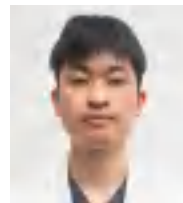
・日本医学放射線学会放射線診断専門医

泌尿器科



泌尿器科主任部長
松本 博臣
まつもと ひろおみ

・日本泌尿器科学会専門医・指導医



泌尿器科副部長
野間 悠太郎
のま ゆうたろう

皮膚科



皮膚科副部長
古河 裕紀子
ふるかわ ゆきこ



皮膚科
赤崎 真子
あかさき まこ

皮膚科



皮膚科
村尾 玲
むらお れい

婦人科



婦人科主任部長
今福 雅子
いまふく まさこ

・日本産科婦人科学会専門医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
・日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
・日本婦人科腫瘍学会
・日本産科婦人科遺伝診療学会
・日本医師会母体保護法指定医師
・女性アスリート健康支援委員会講習会受講医師

歯科



歯科主任部長
渡辺 幸嗣
わたなべ こうじ

・日本小児歯科学会認定小児歯科専門医・指導医
・日本小児口腔外科学会認定医
・日本障害者歯科学会認定障害者歯科認定医

臨床検査科



臨床検査科主任部長
木村 聡
きむら さとし

・日本内科学会総合内科専門医
・日本循環器学会専門医
・日本臨床検査医学会臨床検査専門医・臨床検査管理医
・日本医師会認定産業医

専門医・資格認定等一覧

小児科



副院長
小児総合医療センター長
天本 正乃
あまもと まさの

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



統括部長
高野 健一
たかの けんいち

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科主任部長
石橋 紳作
いしばし しんさく

・日本小児科学会小児科専門医



小児血液・腫瘍内科主任部長
安井 昌博
やすい まさひろ

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本血液学会血液専門医・指導医
・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医
・日本輸血・細胞治療学会輸血認定医・細胞治療認定管理師



小児科主任部長
小林 匡
こばやし まさし

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本救急医学会救急科専門医



小児血液・腫瘍内科部長
稲垣 二郎
いながき じろう

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本血液学会血液専門医・指導医
・日本小児血液・がん学会小児血液・がん専門医・指導医
・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医



小児血液・腫瘍内科部長
本田 裕子
ほんだ ゆうこ

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本血液学会血液専門医・指導医
・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医



小児科部長
富田 一郎
とみた いちろう

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科部長
八坂 龍広
やしか たつひろ

・日本小児科学会小児科専門医



小児科部長
小児臨床超音波センター長
小野 友輔
おの ゆうすけ

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本超音波医学会専門医・指導医



小児神経内科部長
福井 香織
ふくい かおり

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医



小児科部長
長嶺 伸治
ながみね しんじ

小児科



小児科部長
中野 慎也
なかの しんや

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本腎臓学会専門医
・多発性嚢胞腎協会PKD認定医



小児科部長
中野 珠菜
なかの たまな

・日本小児科学会小児科専門医
・日本アレルギー学会専門医



小児血液・腫瘍内科部長
松石 登志哉
まついし としや

・日本小児科学会小児科専門医
・日本血液学会血液専門医



小児科部長
森吉 研輔
もりよし けんすけ



小児科部長
藤崎 徹
ふじさき とおる



小児科部長
江口 啓意
えぐち ひろい



小児科部長
吉田 峻
よしだ しゅん

・日本小児科学会小児科専門医



小児科
今村 徳夫
いまむら のりお

・日本小児科学会小児科専門医



小児科
村上 知恵
むらかみ ちえ

・日本小児科学会小児科専門医
・日本小児神経学会専門医



小児科
小野 佳代
おの かよ

・日本小児科学会小児科専門医
・日本アレルギー学会専門医



小児科部長
沖 剛
おき たけし

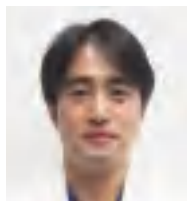
・日本小児科学会小児科専門医
・日本アレルギー学会専門医



小児科専攻医
佐藤 ひかる
さとう ひかる

専門医・資格認定等一覧

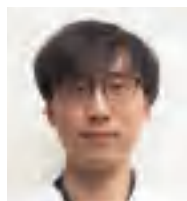
小児科



小児科専攻医
戸谷 凌太
とたに りょうた



小児科専攻医
兵頭 美咲
ひょうどう みさき



小児科専攻医
龍 正一郎
りゅう しょういちろう

初期臨床研修医



初期臨床研修医
江崎 光世
えさき みつよ



初期臨床研修医
木村 愛美
きむら まなみ



初期臨床研修医
井手 睦
いで むつみ



初期臨床研修医
宇野 王士郎
うの おうじろう



初期臨床研修医
新山 仁士
にいやま ひとし



初期臨床研修医
原田 崇暉
はらだ たかき



初期臨床研修医
平田 萌夏
ひらた もえか

院内センター

救命救急センター

センターの紹介

当院の救命救急センターは1978年10月に九州で2番目の救命救急センターとして開設されて以来、北九州地域の三次救急医療体制の中核施設としての役割を果たしてきました。

当センターは北九州市西部地域の2次、3次救急を担う救命救急センターであり1. 救命救急医療、2. 小児救急医療、3. 災害支援医療を政策医療に掲げています。免震の大型屋上ヘリポートはヘリ搬送患者の受け入れ拠点として運用されています。また、病院敷地内には常設型救急ワークステーションが出来、北九州地域の救急業務メディカルコントロール体制における中核施設として活動を行っています。

センターの特徴・取組み

初期研修医は、救急科研修を通じて、平日時間帯は救命救急センター担当医の指導助言のもと、センターに救急搬送された内科、外科系患者の診療に携わっています。救急科領域専門研修プログラム（八幡病院エキスパート研修プログラム）に基づき、現在3名の専攻医が救急領域研修を行っています。研修医、専攻医においては、初期対応患者が緊急手術となるような場合は、手術にも参加出来ます。また、専攻医は、病院前救護とメディカルコントロール体制を学ぶため、当院敷地内に設置されている救急ワークステーションにおいて消防救急車の医師同乗指導に参加します。

診療実績（手術・検査数等）

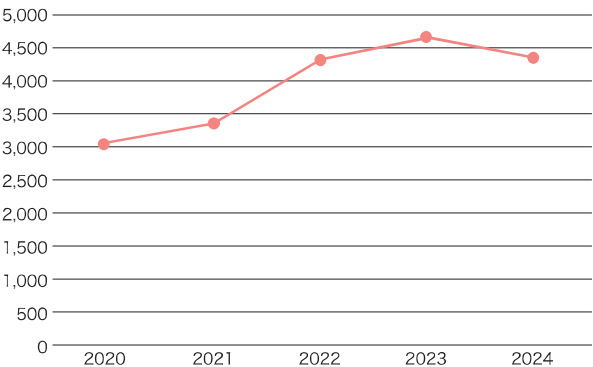
当救命救急センターは、北九州地域の救急救命士に対する再研修、就業前実習、薬剤認定救命士実習、救命救急九州研修所の病院実習など、年間50名以上の実習生を常時受け入れています。また、医師による診断内容の解説、救急外来・一般病棟業務、手術室業務の見学実習、臨床検査技師課、放射線技師課での研修など、搬送傷病者の病院収容後の診療経過が広く学べる体制となっています。

■常設型救急ワークステーション活動

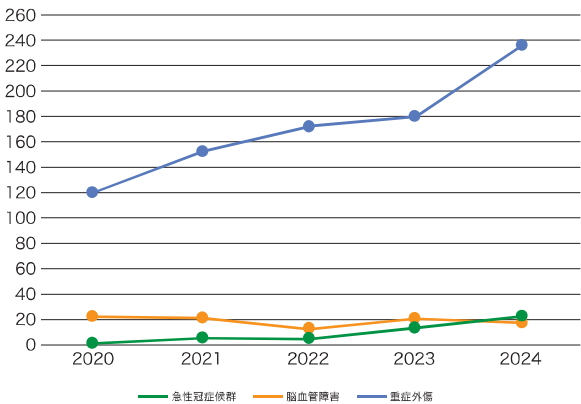
救急ワークステーション（WS）は、2008年6月に当院敷地内に開設されました。平日日勤帯は病院前医療、メディカルコントロール体制を熟知した当院のMC医師が常駐し、救急隊への同乗指導を行っています。

令和6年度 診療実績

救急車搬入件数



重症疾患別受入数



スタッフ紹介



救急科主任部長
呼吸器外科主任部長
救命救急センター長
井上 征雄
いのうえ まさお



救急科部長
平松 俊紀
ひらまつ としき



救急科部長
小児科部長
小児救急センター長
福政 宏司
ふくまさ ひろし



救急科部長
室屋 大輔
むろや だいすけ



救急科部長
北村 拓也
きたむら たくや



救急科副部長
岡本 健司
おかもと けんじ



救急科副部長
外科副部長
金野 剛
こんの たけし

小児救急センター

センターの紹介

当センターは、24時間365日、病気や怪我を問わず、子どもたちの急な不良・不調の診療を行っております。最初の診療・対応を当センターが行い、必要に応じて専門の診療科への診療の引き継ぎを行います。また、集中治療室で重篤な子どもの病状管理や、他院で治療が必要な場合の救急車やヘリでの施設間搬送のほか、院外での教育活動や災害医療にも携わるなど、幅広い活動を行っています。

センターの特徴・取り組み等

①24時間365日体制

24時間365日、内因性(病気)、外因性(けが、中毒など)を問わず、また軽症から重症に関わらず、すべてのお子さまへの対応を行っています。

②トリアージシステム導入

当センターでの診療は、受付順ではなく、看護師により緊急度・重症度を判断(トリアージ)し、その緊急度に応じて診療を行っています。そのため、より緊急度が高いお子さまの診察を優先しますので、お子さまの病状によって診療の順番が前後する場合がございます。

③夜間・休日診療

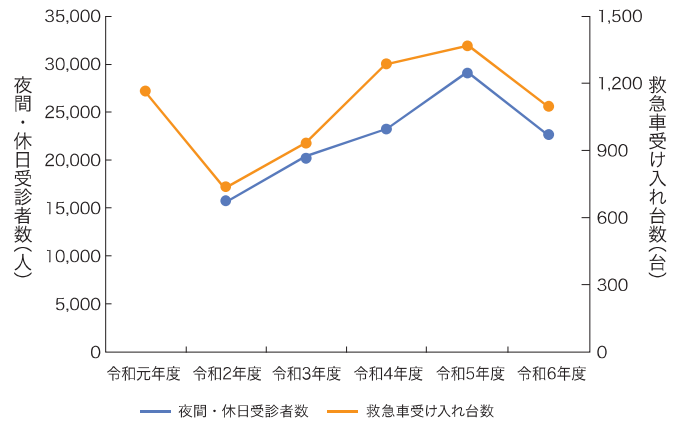
夜間・休日診療では緊急処置を実施することを目的とし、詳しい特殊な検査などが必要な場合には、通常診療時間帯の専門診療科に紹介し、実施させて頂いております。当然のことながら、緊急入院治療が必要であれば入院の上、適切な検査・処置を実施致します。また原則1日分(あるいは休日明け分まで)の処方とさせて頂いております。継続処方が必要であれば、翌日または休日明けに、かかりつけ医療機関を受診して頂くようにお願いしております。

当センターは急性期のどんなニーズにも対応し、お子さまとその保護者の方々が安心出来る医療の提供を心がけております。緊急の対応が必要と判断された際には直接ご紹介いただくか、お電話でご相談ください。

令和6年度 診療実績

夜間・休日受診者数	22,676人
夜間・休日入院患者数	1,208人
救急車受け入れ台数	1,093台
救急車入院患者数	284人

小児救急センター診療実績の推移



スタッフ紹介



救急科部長
小児科部長
小児救急センター長
福政 宏司
ふくまさ ひろし

小児臨床超音波センター

センターの紹介

2023年4月1日、日本初の小児臨床超音波センターが開設されました。『小児科医』『実臨床』の中で自ら『超音波検査』を行うセンターです。今後の小児救急医療にはこのスタイルが必要と考え2011年から計画を進めてきたプロジェクトが形になりました。その火付け人である故 市川光太郎名誉院長は『常に謙虚に』。という言葉をもっとにしておりました。当センターはその言葉を胸に、こどもたちの声なき声を超音波検査で聞く代弁者でありたいと思います。

センターの特徴・取り組み

自ら外来で、また当院外来担当医や近隣の先生方からご紹介いただいた患者様に対して積極的に超音波検査を施行します。腹痛や嘔吐の原因、熱の原因はもとより、原因不明のしこり(腫瘤)や不機嫌、あるけない、など多くのご依頼をいただいています。原因が不明な場合でも、緊急性があるのかどうか、などを見分けていきます。また超音波検査も臨床医が行いますので、その場で臨時的な追加治療や追加検査の説明や方針検討も行います(ダブルアイシステム)。そして、入院や外来などすべての患者様に超音波検査を用いてプラス1の医療を提供出来ないかということ日々模索しております。

また、当院には小児超音波の研鑽を希望し全国から多くの医師が研修にきてくれます。“開業をするので1か月集中特訓を希望！”という熱い先生もおられます。週に一回、半年、一年、また後期研修医として3年間などいろいろなニーズに合わせて、“一発診断をつける武器、そして診断エラーから防ぐ防具”を得てもらうことを目標にしています。また当センターの卒業生が全国で超音波検査を駆使し活躍しています。『どこの放射線科で超音波を学んだの?』『小児科でしか研修をしていません!』といううれしいやりとりもあるようです。

■小児臨床超音波センター理念

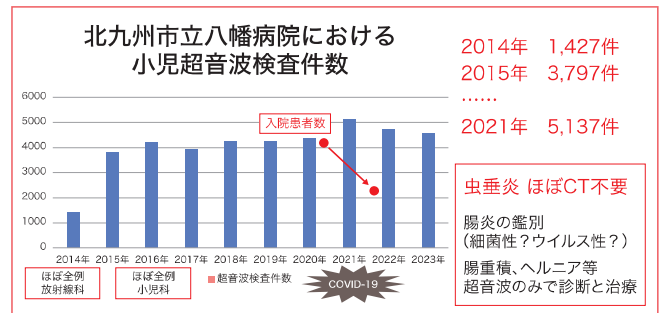
- 一 小児臨床超音波センターは常に謙虚な心を持ちチーム医療を徹底する
- 二 小児臨床超音波センターはno blame & respectの精神を持ち、どんな依頼でもthanks for callingの気持ちを持つ
- 三 小児臨床超音波センターは内因、外因関係なくこども達はすべて診させていただき思いを持つ
- 四 小児臨床超音波センターはこども達だけではなく、保護者ともがっぷり四つである
- 五 小児臨床超音波センターはこども達の代弁者という思いを持ち、プローブを通して、その声なき声を聞く

■当院小児臨床超音波センターが取材されました。

INNERVISION (株)インナービジョン

Cannon clinical report 01 侵襲なく全身を診られる超音波検査で子ども達の声なき声を聞く小児臨床超音波の実際
https://www.innervision.co.jp/ad/suite/canonmedical/clinical-report/2501us?utm_campaign=mokujiaura2501us&utm_medium=middlebanner&utm_source=top

診療実績 (手術・検査数等)



スタッフ紹介



小児科部長
臨床小児超音波センター長
小野 友輔
おの ゆうすけ

小児科専門医・指導医で日本超音波医学会(総合領域)専門医・指導医を保持している医師は全国でも数名です。学会での講演、シンポジウムをはじめ全国から講演やハンズオンセミナーの依頼をいただいています。

■資格、役職

日本小児科学会小児科専門医・指導医、日本超音波医学会(総合領域)専門医・指導医、日本超音波医学会教育委員会、専門医制度委員会、小児超音波研究会理事、茨城こどもECHOゼミナール理事、スクリーニングネットワーク理事

■受賞歴

2015、2016年 超音波医学会(九州ブロック)
YIA(young investigators award) 最優秀賞(二年連続)
2017年 第26回 canonメディカルシステムズ 画論 優秀賞
2018年 小児超音波研究会 best image 最優秀賞
2019年 第27回 キヤノンメディカルシステムズ 画論 最優秀賞受賞
2021年 第29回 キヤノンメディカルシステムズ 画論 優秀賞
他、エコー研修生達の超音波関連発表、受賞多数

■令和6年度業績

【講演】

- #1 第16回 超音波に親しむ会 特別講演
小児臨床超音波の扉をあけると…(小児)超音波に親しむ会Ver.
- #2 コニカミノルタジャパンセミナー 講演
小児POCUSの扉を開くと
- #3 茨城エコーゼミナール ランチョンセミナー 講演
Aから始まる小児臨床超音波
- #4 東京都立小児医療センター 講演
小児臨床超音波の扉を開けば
- #5 第399回福岡大学クリニカルカンファレンス 講演
小児臨床超音波の扉を開けば ~凱旋が出演か
- #6 第9回小児超音波研究会学術集会
マニアのための虫垂炎シンポジウム
指定演者：小児臨床超音波の中の虫垂炎
- #7 同上クロージングレクチャー
シン・これから出会う小児臨床超音波物語 ~ (小児)エコーしようぜ!~
- #8 第17回超音波セミナー in新潟 講師
小児臨床超音波の扉を開けると

【ハンズオンセミナー講師】

- #1 熊本小児超音波セミナー ハンズオンセミナー講師
- #2 茨城エコーゼミナール ハンズオンセミナー講師
消化管初級

■執筆

浅井塾直伝! できる小児腹部エコー
小児超音波診断のすべて
腸重積ガイドライン(第二版)
他多数

【その他、座長・司会等】

- #1 第97回 日本超音波医学会
特別プログラムワークショップ 小児超音波で診断エラーと向き合う
座長
- #2 第9回小児超音波研究会学術集会
シンポジウム1 虫垂炎の診断について考える
総合司会、座長
- #3 同上シンポジウム2 虫垂炎の治療について考える
コメンテーター
- #4 同上シンポジウム3 日常疾患の診断治療における超音波の問題
総合司会、座長
- #5 キヤノンメディカルシステムズ
プレパレーション動画作成 監修

【執筆】

- #1 月刊 臨床と研究
第101巻 第7号 小児における超音波検査(869-876)/大道学館
- #2 救急・集中治療
小児の急性虫垂炎における超音波検査(143-149)/総合医学社
- #3 小児科診療 第88巻 第1号
特集：正しく怖がれ、小児救急1人対応! ~ファーストタッチから専門診療へ~
ERで大活躍するエコーのコツ(95-102)/診断と治療社
- #4 INNERVISION(インナービジョン) 第40巻 1号
Cannon clinical report 01
侵襲なく全身を診られる超音波検査で子ども達の声なき声を聞く小児臨床超音波の実際

災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター

センターの紹介

外傷やその他の形態異常によって、患者さんはQOL(クオリティオブライフ、生活の質)を損なわれることがあり、身体の形態におよんだ変化によって患者さん自身には様々なストレスを生じることになります。

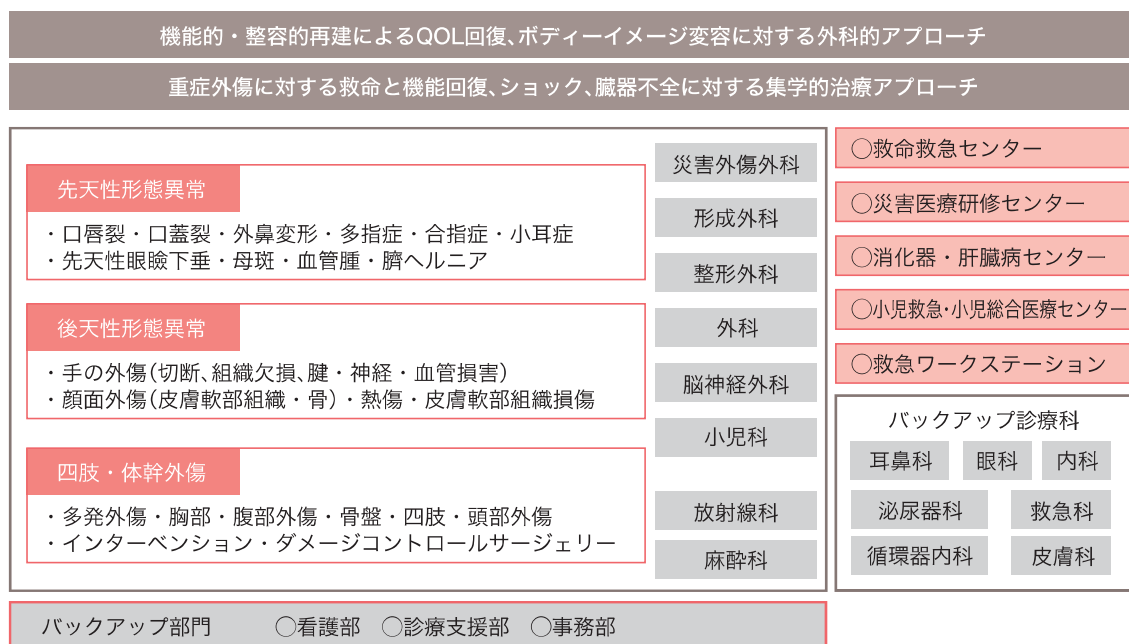
「外傷・形態修復・治療センター」では、先天的な形態異常や後天的な外傷・手術後の変形などに対し、チームとして機能的・整容的な再建を行うことで患者さんのQOL回復を目指します。

特徴・強み

事故災害等で発生する外傷に対して、主に救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターが24時間体制で窓口となり、当センターの関連各科が滞ることなく連携し、初期から回復期まで専門的な治療を繋げて行くことが出来ます。

災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全などの集学的治療も担っています。

組織様式と主な対象疾患



※災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全など集学的治療を担う

スタッフ紹介



副院長
形成外科主任部長
田崎 幸博
たさき ゆきひろ

診療支援部

薬剤課

部門の紹介

病める患者さんのために薬学的視点から医薬品の有効性・安全性を確保することを基本姿勢とし、救急医療に対応するため24時間の勤務体制でチーム医療に貢献しています。がん化学療法では、がん薬物療法認定薬剤師・外来がん治療認定薬剤師が協働し抗がん剤の無菌調製やレジメン管理・有害事象防止の提案を行い安心・安全な化学療法を提供しています。抗菌化学療法認定薬剤師を含む課内感染チームが感染制御に携わり、高度医療(医薬品)安全推進者の認定を受けたスタッフが医療安全・医薬品安全を推進しています。DMAT(災害派遣医療チーム)の業務調整員も在籍し、災害発生時の対応も行っています。NST(栄養サポートチーム)専門療法士は薬学的見地より薬剤の処方内容を検討するとともに、輸液製剤、経腸栄養剤と薬剤との相互作用の検討を行い、患者の回復を栄養面から支援します。糖尿病、アレルギー疾患、心不全、腎臓病の各療養指導士もそれぞれの分野で活躍しています。このように当課では専門・認定薬剤師の取得を支援しています。地域の保険医療機関や保険薬局との連携を強化していきたいと考えております。

主な業務内容

■中央業務

処方監査を行い、薬剤の減量等が必要な場合は医師に疑義照会した上で調剤を行います。計数調剤管理システムや散薬監査システム、錠剤自動分包機、散薬自動分包機、散薬調剤ロボットも導入しています。注射薬はアンプルピッカーを導入し、1施用毎の払い出しを行っています。

■外来薬剤師業務

がん治療に係る説明や、吸入薬・インスリン・各種皮下注射等デバイス等の説明を行います。

■入院支援センター業務

予定入院患者さんの常用薬、副作用歴、休薬が必要な薬剤の確認などを行い、必要な説明や情報提供を行っています。

■製剤業務

市販にない製剤を医療現場からの要望により、妥当性を評価し調製しています。また、入院小児患者さんに使用されるTPN(経静脈栄養法)の輸液調製を行っています。

■治験薬調製業務

薬剤課は、院内の治験薬(試験薬)を一括して管理しており、安全かつ迅速に患者さんに投与するために、注射剤であれば無菌調製等も行っています。治験(臨床試験)に関わる医師、看護師、臨床試験コーディネーターらと連携して、円滑に試験が実施できるようサポートしています。IRB(Institutional Review Board)治験審査委員会に委員として参画しています。

■薬事委員会・医薬品情報業務

医薬品情報を整理し、必要な情報を迅速に提供します。また薬事委員会の事務局として医師の医薬品採用申請に応じ、医薬品の採用に係る審査を行います。電子カルテの医薬品に係るマスター管理を経営係、医事係と連携して行っています。

■病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟の専任薬剤師が持参薬・薬物相互作用・副作用歴・アレルギー歴・喘息の既往、検査値の確認を行い、退院するまで継続して検査値、薬物有害事象の確認を継続し、処方提案を積極的に行います。医師・看護師などへの医薬品情報の提供、病棟における医薬品管理などを行っています。カンファレンスや回診にも同行しています。

■周術期管理業務

術後疼痛管理チームの一員として医師・看護師・臨床工学技士と連携し、術後患者の痛みや吐き気などの苦痛を緩和することを目的とし活動しています。

■抗がん剤等の無菌調製およびモニタリング

申請されたレジメンを審査し、登録を行い、その情報に基づき、医師の処方を監査し、各患者の状態に応じた抗がん剤の無菌調製を行います。リーフレットを用いた投与スケジュールや予測される副作用について説明し、自宅でも対応出来るように教育しています。抗がん剤投与後も継続して有害事象をモニターし支持療法を提案しています。

■治療薬物モニタリング

抗菌化学療法等、適正な薬物療法のため薬物の血中濃度から投与設計・モニタリングを行います。アミノグリコシド系薬剤等は腎臓の機能に合わせた投与量が必要とされ、MRSAに使用されるバンコマイシン等は抗菌力を発揮するためには十分な投与量が必要とされます。薬剤師は体重や腎機能に合わせた投与量の設計を実施し、医師に提案しています。

特徴・強み

薬剤課の特徴・強みとして、小児の薬物療法に注力しており、小児薬物療法認定薬剤師も在籍し、患児および保護者に対しても医薬品に関する説明や助言・教育を行っています。小児領域の薬物療法は、長期にわたるがん化学療法の管理や成長ホルモンや吸入デバイス説明、糖尿病療養指導、臨床試験への参加など多岐にわたり、成人とは異なる難しさがあります。なかでも小児のがん化学療法を専門的に行える施設は全国的にも少なく、当院の特徴の一つと言えます。薬剤師が、がん化学療法に密接に関わることで患児やご家族のQOLが上がり、レジメン遂行の達成率もあがると考えられます。

成人の患者さんにも同様な手厚い病棟薬剤師業務を実践しています。退院後の薬物療法が安全に行えるように八幡薬剤師会とも密接に連携をとっており、定期的に薬業連携会を開催しています。

薬学生の教育に力を入れており、年間最大9名の長期実務実習生(11週間/Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ期)を受け入れ、薬剤師として必要な知識・技能を習得出来るよう指導・育成を行っています。

令和6年度業務実績

処方箋枚数(入院)	5,379.2枚/月
処方箋枚数(外来)	6,251.4枚/月(うち院外6,195.4枚/月)
注射処方箋件数(入院)	23,456.5枚/月
注射処方箋件数(外来)	1,814.6枚/月
抗がん剤調製件数	948件
がん患者管理指導料3算定件数	32件
連携充実加算算定件数	264件
病棟薬剤業務加算1算定件数	15,047件
薬剤管理指導算定件数	
薬剤管理指導料(325点)	6,010件
薬剤管理指導料(380点)	6,418件
退院時薬剤情報管理指導料	5,212件
麻薬管理指導加算	147件
TDM解析業務件数	114件
吸入指導件数	291件
インスリン・SMBG指導件数	55件
成長ホルモン・デバイス指導件数	2件
骨粗鬆症デバイス指導件数	24件
アトピー性皮膚炎・喘息デバイス指導件数	18件
入院支援センター面談件数	294件
薬学部実務実習生受け入れ	7名

現在のスタッフ資格認定状況

専門認定資格名	人数
認定実務実習指導薬剤師	4名
日本医療薬学会認定医療薬学専門薬剤師	1名
日本栄養治療学会認定NST専門療法士	2名
日本医療安全学会高度医薬品安全推進者	1名
日本病院薬剤師会認定がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本臨床腫瘍薬学会認定外来がん治療認定薬剤師	2名
日本化学療法学会認定抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本麻酔科学会認定周術期管理チーム薬剤師	2名
小児薬物療法認定薬剤師	2名
漢方薬・生薬認定薬剤師	1名
日本災害医学会認定災害医療認定薬剤師	1名
アレルギー疾患療養指導士	2名
日本循環器学会認定心不全療養指導士	2名
腎臓病療養指導士	1名
日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	2名
福岡県糖尿病療養指導士(LCDE)	1名
肝炎治療コーディネーター	1名
日本薬剤師研修センター認定薬剤師	10名
日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師	3名
福岡県DMAT	3名
日本DMAT	1名

スタッフ紹介



薬剤課 課長
原田 桂作
はらだ けいさく

臨床検査技術課

部門の紹介

臨床検査技術課は男性8名、女性19名の臨床検査技師と、受付担当の女性3名、事務補助者1名で業務にあたっています。半数以上を20～30歳代の技師で構成しており、定年退職後再任用として頑張っている技師もいます。検査を通して病院機能に貢献出来るよう、誠実に真心を込めて検査に取り組み、皆様に安心・信頼される臨床検査技術課を目指し、全スタッフで日々努力しています。また、臨床検査技師を目指す学生の臨地実習を受け入れ、臨床検査技師育成にも貢献しています。

主な業務内容

■一般検査

尿・便・髄液・体腔液等の一般スクリーニング、ウイルス抗原迅速検査、遺伝子検査

■病理学的検査

組織検査、細胞検査、病理解剖

■血液学的検査

血球数算定・分類、凝固線溶系検査

■生化学的検査

血液化学検査、内分泌学的検査、腫瘍マーカー、感染症免疫学的検査

■生理機能検査

超音波検査、心電図検査、聴力検査、脳波検査、肺機能検査

■輸血検査

血液型、不規則性抗体スクリーニング検査、交差適合試験

■細菌学的検査

一般細菌培養・同定・感受性、抗酸菌培養・同定、遺伝子検査

特徴・強み

検体検査では、患者様から採取された様々な検体を対象として、正確なデータを迅速に患者様のもとにお届け出来るよう検査に臨み、質の高い検査を維持出来るよう努力しています。また、生理機能検査では、患者様と直接接する検査なので、患者様に対して十分な説明のもと安心して検査を受けていただけるよう心がけています。

当院は新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受けているので、入院時の新型コロナウイルス遺伝子検査を継続して行っており、ルーチン帯は1日5回の定時検査として、TRC法を行い、ルーチン帯と時間外の迅速検査として、RT-PCR法を行い診療に貢献しています。

病院の掲げる政策医療である救命救急医療と小児救急医療にも対応すべく夜勤者を2名配置し、24時間365日検査が出来る体制をとっています。また、災害支援医療に関しては、災害派遣医療チーム(DMAT)にも2名が参加しており、定期的な訓練等も行っています。

スタッフ紹介



臨床検査技術課 課長
荒木 猛
あらき たけし

業務実績(令和6年度検査件数)

検査部門別件数

	一般検査	生化学検査	血液検査	生理検査	病理検査	細菌検査	時間外検査	総件数
4月	14,526	47,079	18,447	1,376	913	1,997	20,201	104,539
5月	14,832	49,492	19,650	1,408	1,076	2,419	22,627	111,504
6月	13,929	47,994	18,828	1,467	974	2,466	21,892	107,550
7月	15,866	56,437	22,471	1,503	1,028	2,836	24,147	124,288
8月	13,885	52,232	20,248	1,459	994	2,426	23,502	114,746
9月	12,676	44,319	16,633	1,333	966	1,628	20,302	97,857
10月	13,140	47,866	17,706	1,444	1,017	1,757	18,351	101,281
11月	12,644	47,754	17,991	1,388	835	2,123	21,629	104,364
12月	14,057	52,625	19,946	1,500	1,071	2,988	30,382	122,569
1月	14,514	52,649	19,898	1,596	885	3,128	30,007	122,677
2月	13,946	49,544	19,190	1,379	1,033	2,670	23,515	111,277
3月	14,331	55,710	21,067	1,650	981	2,958	22,662	119,359
合計	168,346	603,701	232,075	17,503	11,773	29,396	279,217	1,342,011
月平均	14,029	50,308	19,340	1,459	981	2,450	23,268	111,834

外来・入院別件数

	一般検査		生化学検査		血液検査		生理検査		病理検査		細菌検査	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
4月	11,095	3,431	30,362	16,717	10,956	7,491	1,134	242	332	581	1,253	744
5月	11,533	3,299	31,221	18,271	11,395	8,255	1,203	205	406	670	1,599	820
6月	11,236	2,693	30,566	17,428	11,055	7,773	1,254	213	439	535	1,587	879
7月	12,632	3,234	34,978	21,459	12,685	9,786	1,271	232	333	695	1,990	846
8月	11,511	2,374	32,457	19,775	11,388	8,860	1,250	209	362	632	1,431	995
9月	10,615	2,061	29,767	14,552	10,345	6,288	1,129	204	361	605	1,211	417
10月	11,249	1,891	32,170	15,696	11,245	6,461	1,204	240	405	612	1,310	447
11月	10,136	2,508	29,835	17,919	10,375	7,616	1,147	241	421	414	1,355	768
12月	11,199	2,858	32,332	20,293	11,209	8,737	1,234	266	436	639	2,014	974
1月	11,307	3,207	30,726	21,923	10,663	9,235	1,297	299	331	554	2,136	992
2月	10,364	3,582	29,016	20,528	10,190	9,000	1,137	242	391	648	1,696	974
3月	11,470	2,861	34,923	20,787	12,001	9,066	1,386	264	341	640	1,841	1,117
合計	134,347	33,999	378,353	225,348	133,507	98,568	14,646	2,857	4,558	7,225	19,423	9,973
月平均	11,196	2,833	31,529	18,779	11,126	8,214	1,221	238	380	602	1,619	831

資格認定者数

専門資格名	人数
細胞検査士	5名
認定超音波検査士	6名
認定輸血検査技師	1名
健康食品管理士	1名
食の安全管理士	1名
有機溶媒作業主任者	4名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	3名
認定臨床微生物検査技師	1名
感染制御認定臨床微生物検査技師	1名
認定血液検査技師	1名
特定病原体等の運搬責任者	2名
福岡県糖尿病療養指導士	1名
二級臨床検査士(微生物学)	2名
福岡県DMAT	2名
緊急臨床検査士	1名
肝炎コーディネーター	1名
医療安全管理者	2名
臨地実習指導者	1名

放射線技術課

部門の紹介

放射線技術課は診療放射線技師23名で構成され、24時間体制で放射線業務を行っています。

主な検査内容はX線撮影、CT検査、MRI検査、RI検査、透視検査、血管造影検査、心血管造影検査です。患者の負担軽減を考慮しつつ質の高い検査を行い、診療の支援が出来るよう努めています。

機器および運用を整備し、高度医療機器の共同利用のお役に立てると考えております。地域医療機関からの検査依頼をお願いいたします。

新型コロナウイルスは落ち着いてきましたが、今後も感染対策には十分に注意してまいります。

主な業務内容

- ①X線撮影(4室)：一般撮影、デンタル、マンモグラフィー
- ②骨密度測定(1台)
- ③CT検査(256列：1台、64列：1台)
- ④MRI検査(1.5テスラ：1台)
- ⑤RI検査(1台)
- ⑥透視検査(2台)
- ⑦血管造影検査(パイプライン血管造影装置と64列CT装置のハイブリッド手術室：1室)
- ⑧心血管造影検査(2台)

特徴・強み

放射線技術課では、各部門にチーフ担当者を配置し、特にCT検査、MRI検査部門には専従の技師を配置しており、質の高い検査を心掛けています。学会や研修に参加し、知識や技術の向上に励んでいます。

また、医療放射線被ばくの管理は大きな役割だと考えており、診療に適した検査を行いつつ、放射線被ばくを低減するよう取り組んでまいりました。その結果、「医療被ばく低減施設」の認定を取得しました。福岡県では7番目、北九州市では2番目の認定となり、北九州市立八幡病院の努力の成果だと自負しております。

地域医療、救急医療に貢献できるよう、すべての救急検査に対応出来る診療放射線技師を育成し、24時間体制で対応しています。患者とスタッフの安全を第一に考え、感染対策を徹底し、診療の一助となるよう努めてまいります。

令和6年度 業務実績

R6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	2,649	2,841	2,763	3,152	3,001	2,507	2,699	2,761	3,206	3,293	2,826	3,161	34,859
透視	127	147	134	147	134	135	143	153	120	134	135	137	1,646
CT	780	799	787	851	787	740	730	804	902	948	826	831	9,785
MRI	216	252	225	239	195	224	244	252	233	220	201	231	2,732
RI	33	21	25	16	15	33	25	19	23	22	15	25	272
血管造影	1	1	4	3	1	5	1	3	5	2	0	2	28
心カテ	17	16	19	20	15	18	20	21	29	26	22	22	245
MMG	12	4	7	8	6	10	10	12	8	5	4	16	102
骨塩	29	24	20	27	26	26	41	15	29	18	20	27	302

現在のスタッフ資格認定状況

専門資格名	人数
第1種放射線取扱主任者	5名
検診マンモグラフィー撮影認定	2名
磁気共鳴専門技術者	3名
X線CT認定技師	7名
Ai認定	2名
画像等手術支援認定	4名
救急撮影認定技師	2名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	1名
医療情報技師	1名

スタッフ紹介



放射線技術課 課長
樽林 斉
くねばやし ひとし

リハビリテーション技術課

部門の紹介

基本理念：地域医療支援病院、急性期病院として安全で質の高いリハビリテーション医療を提供致します。

基本方針：①患者様に寄り添ったリハビリを提供致します。

②科学的根拠に基づいたリハビリを早期より行います。

③リハビリを継続する事で患者様の機能回復・日常動作や生活の質向上に努めます。

④多職種との連携を行い、患者様を総合的にサポート致します。

リハビリテーション技術課では、主に入院患者様に対して、主治医の指示により、リスク管理を行いながら急性期・早期リハビリテーションを実施しております。また、多職種で患者様の機能回復・ADL向上に関わり、回復期病院転院や自宅退院などを目指しております。
スタッフ数：理学療法士12名、作業療法士8名、言語聴覚士4名、受付3名

主な業務内容

■リハビリ診療：疾患別リハビリテーション(運動器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、廃用症候群)、がんのリハビリテーション、摂食・嚥下療法など。

■ICU、HCUなどへの早期離床・リハビリテーション介入。

■チーム医療への参加(全病棟に専従スタッフ配置、各種チームラウンド・カンファレンス・回診など)

■各種委員会への参加

特徴・強み

当院は急性期の地域支援病院で一般診療、小児科など、様々な疾患の患者さんを受け入れている特徴があります。

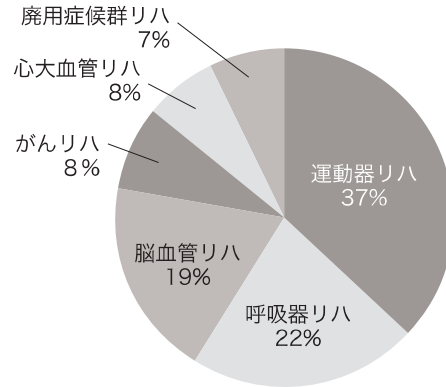
2018年12月の新病院移転より、整形外科疾患の人工関節手術や関節内の手術などが行われるようになりました。術前・術後のリハビリテーションを積極的に行い、患者さんのQOL向上につなげていけるよう努めています。

リハビリテーション技術課では病棟専従スタッフを全病棟に配置し、入院早期よりリハビリ介入に取り組んでいます。

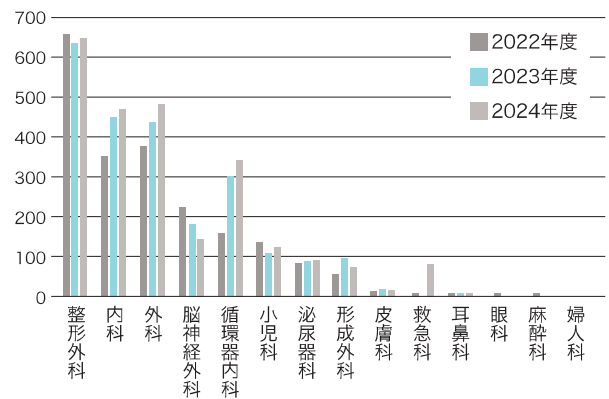
現在、土曜日はシフト制で、術後や入院初期の患者様のリハビリ対応を行っております。今後は日曜・休日を含め365日のリハビリ対応を目標に取り組んでいきます。

業務実績

2024年度 疾患別リハビリ単位数



診療科別新患数



資格認定者数

専門資格名	人数
3学会合同呼吸療法認定士	PT5名、OT2名
心臓リハビリテーション指導士	PT2名
がんのリハビリテーション研修修了	PT9名、OT6名、ST2名
介護支援専門員(ケアマネージャー)	PT2名、OT2名
認定理学療法士(運動器)	PT1名
A-ONE認定評価者	OT1名
失語症者向け意思疎通支援者	ST1名
福祉住環境コーディネーター2級	PT1名、OT2名
骨粗しょう症リエゾンマネージャー	OT1名
精密知覚機能検査講習受講者	OT3名
医療安全管理者養成講座修了者	PT1名
地域個別ケア会議推進リーダー	PT2名
臨床実習指導者研修修了者	PT4名、OT3名

スタッフ紹介



リハビリテーション技術課
課長
須崎 省二
すさき しょうじ

栄養管理課

部門の紹介

安心安全でおいしい食事の提供を心がけています。

患者さんの病態に応じて食事の内容は異なりますが、食事を楽しんでいただけるように、献立に季節感を盛り込み、行事食にはカード等を添えて提供しています。

また、栄養管理計画に沿った栄養摂取、治療の達成のために、しっかり喫食していただけるよう、患者さんの声も参考により良いものにしていきます。

食事提供業務の一部をエムサービス株式会社に委託しています。

主な業務内容

■給食管理業務

給食管理業務を一部委託し、委託会社と協働で行っています。

■栄養管理業務

入院診療計画書で「特別な栄養管理の必要性有り」と評価された患者さんに対して栄養管理計画書を作成し、入院から退院まで定期的に栄養評価しています。

■栄養指導業務

入院・外来患者さんに栄養食事指導を行っています。

■チーム医療

栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡ケアチーム等

特徴・強み

食種に制限はありますが、年末年始を除く毎日、朝・夕に選択出来る食事を提供しています。

食物アレルギー等に対応するため、個別に献立を作成することもあります。

小児科医、看護師とともに小児がん患者さんの食欲不振に対応出来るような食事を考え、提供しています。内容については随時更新しています。

言語聴覚士、摂食嚥下障害看護認定看護師とともに患者さんの摂食嚥下状態に沿った食事の提供を心がけています。

随時病棟を訪問し、患者さんの状況を確認し、主食の形態や量の変更のほか、栄養補助食品などの提供を行い、栄養摂取につながるよう努めています。

チーム医療の一員として、栄養サポートチーム・褥瘡・外科回診、ICU・脳神経外科・小児科・循環器内科カンファレンスなどに参加しています。

的確に対象者を把握し、速やかに評価や介入を行える体制の必要性や生活習慣病の増加等に対する効果的・効率的な疾病管理及び重症化予防の取組の推進がますます求められています。そのため、今後多職種と連携して患者さんの栄養管理を行っていきます。

令和6年度 業務実績

外来・入院栄養食事指導	875件
栄養サポートチーム加算	169件
病棟訪問	6,021件

現在のスタッフ資格認定状況

福岡県糖尿病療法指導士	3名
アレルギー疾患療養指導士	3名
小児栄養分野管理栄養士	1名
病態栄養専門管理栄養士	2名

スタッフ紹介



栄養管理係長
中山 由紀子
なかやま ゆきこ

臨床工学課

部門の紹介

臨床工学課には、臨床工学技士7名が在籍しています。臨床工学技士は現在の医療に不可欠な医療機器の専門職です。チーム医療の一員として診療技術支援および医療機器管理業務を行っています。医療の進歩に伴い、医療機器はますます複雑化し、その専門性も増えています。当課は、これらの機器を使用した検査や治療が安全かつ効果的に行われるよう基盤整備を担っています。

主な業務内容

- 医療機器管理業務
- 手術室業務
- 内視鏡室業務
- 循環器関連業務
- 人工呼吸器関連業務
- 各種血液浄化療法
- 造血幹細胞採取
- チーム医療活動
- 医療機器安全管理責任者業務

特徴・強み

手術室、内視鏡室、心臓カテーテル検査室、重症系病棟、一般病棟において、医療機器の専門家の目線で診療技術支援を行う事でその体制を支えており、関連する学会認定資格等も積極的に取得しています。当院は救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターを有するため、緊急の手術・治療にも対応しています。

医療機器管理業務としては手術・検査・治療・療養の各場面で使用する医療機器の導入時評価や導入後の使用方法の周知に始まり、保守点検やトラブル対応、修理窓口、廃棄評価までを一手に担い、医療機器安全のマネジメントを行っています。医療機器の安全使用のための環境整備や教育、機器運用の効率化によるコスト削減も当課の重要な役割です。

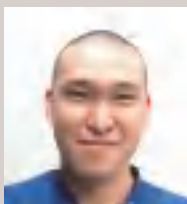
令和6年度 業務実績

業務内容	実績数
医療機器日常点検	34,143件
医療機器定期点検	1,172件
医療機器修理点検	495件
トラブル対応	337件
内視鏡介助業務	1,027件
内視鏡スコープ洗浄業務	1,012件
内視鏡消毒装置管理	12件
人工呼吸器使用中点検	1,148件
血液浄化関連業務	93件
手術立ち合い業務	422件
手術器械出し業務	113件
神経モニタリング業務	15件
術後疼痛管理チームラウンド	122件
麻酔科準備補助業務	788件
心カテ検査・治療関連業務	316件
補助循環管理業務	18件
心臓埋込デバイス手術関連業務	33件
ペースメーカー遠隔モニタリング	384件
ペースメーカーチェック	193件
医療機器運用マネジメント(試用・導入検討・登録・廃棄・運用・情報収集)	
人工呼吸器関連業務(安全管理・提案・指導・教育)	
その他業務(各種委員会・チーム活動/医療安全ラウンド/医療機器研修会)	

現在のスタッフ資格認定状況

専門資格名	人数
消化器内視鏡技師	1名
周術期管理チーム臨床工学技士	2名
3学会合同呼吸療法認定士	1名
透析技術認定士	1名
第2種ME技術者	4名
医療機器情報コミュニケーター(MDIC)	1名

スタッフ紹介



臨床工学課技士長
春藤 毅之
しゅんどう つよし

看護部

看護部

看護部長挨拶

昨年度、看護部長に就任し、地域の皆様や院内の多くの方に支えられて様々な困難を乗り越えることが出来ました。深く感謝申し上げます。

八幡病院は、公立病院として24時間365日、救命救急医療、小児救急医療、災害医療支援に対応します。そのために看護部として、看護の専門性を発揮し、質の高い看護を提供すること、患者さんがご希望した場所で生活出来るように、地域との連携を強化していくことが重要です。患者さん、ご家族に寄り添い、心温かい看護をめざします。

今後とも、皆様方のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

【令和7年度 看護部目標】

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 地域連携を強化した看護サービスの提供
3. 健康で安全に働き続けられる職場づくり
4. 病院経営への積極的な参加

看護部の方針

八幡病院看護部は、救急医療の役割を担う病院としてチーム医療を推進し、円滑・効率的に協働するために研鑽を図り専門職として、倫理にもとづいた科学的かつ主体性のある看護を目指しています。

【看護部方針】

- 1) 笑顔で相手の立場に立った看護を提供します
- 2) 自己研鑽に努め知識・技術の向上を図ります
- 3) 事故防止と感染予防に努め、安全な看護を提供します
- 4) 快適な療養環境を整え、患者サービスの向上を図ります
- 5) 地域との連携を図り、継続看護に努めます
- 6) 病院の健全経営に参画します

新卒看護師教育スケジュール

クリニカルラダーⅠ研修と厚生労働省の新人看護職員研修ガイドラインに準じた教育プログラムおよび標準的な新卒看護師教育スケジュールパスに沿って教育しています。

クリニカルラダーⅠ研修

4月	入職時研修 看護技術研修
5月	コミュニケーションスキルⅠ、重症度、医療・看護必要度、診療報酬Ⅰ、自己分析・ストレス発散法
6月	フィジカルアセスメントⅠ、ハラスメント防止
7月	スキンケアⅡ、看護過程Ⅱ
8月	災害看護Ⅰ、急変対応Ⅰ
9月	感染管理Ⅱ、輸血の取り扱い
10月	摂食・嚥下障害の看護Ⅰ、医療安全Ⅱ
11月	多重課題Ⅰ、退院支援・調整Ⅰ
12月	患者の心理、逝去時の看護
2月	事例発表会・今後の課題

看護部の理念

「救急医療の中核としての役割のもとに、生命の尊厳・人間性を尊重した、こころ温かい看護を提供します。」

教育体制について

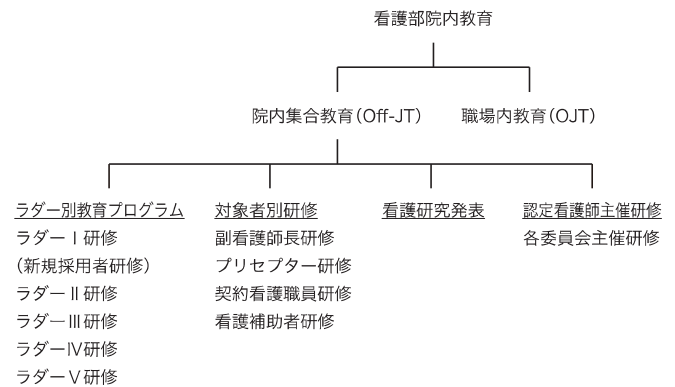
【教育理念】

北九州市立八幡病院の看護部の理念に基づき、専門職業人として時代の変化に対応出来、市民に信頼される質の高い看護が提供出来る看護師を育成する。

【教育目的】

北九州市立八幡病院看護部の一員として責務を遂行するために必要な看護実践能力の獲得・維持向上および看護職の学習に対する要望を支援することを目的とする。

看護部教育体系



認定看護師の紹介

当院では、より質の高い看護の提供ができるよう認定看護師の資格取得にも力を入れています。委員会活動や医療のメンバーとして院内を組織横断的に活動し、看護ケアの質向上・チーム医療の推進

に貢献しています。また、地域での活動も積極的に行っています。
現在、9分野13名の認定看護師が活動しています。

【認定看護師紹介】

小児救急看護	3名	梶原 多恵、橋本 優子、伊與田 久美子
脳卒中リハビリテーション看護	1名	岩永 妙
集中ケア	1名	川崎 久美子
救急看護	1名	井筒 隆博
感染管理	2名	中川 祐子、山田 友美
がん化学療法看護	1名	福永 聡
摂食・嚥下障害看護	2名	最所 麻奈美、日畑 沙也加
認知症看護	1名	塩田 輝美
慢性心不全看護	1名	木原 朋香

特定行為研修修了者紹介

西村 亜美

- 【特定行為区分】
- ・栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連
- 【在宅・慢性期領域】
- ・呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連
 - ・ろう孔管理関連
- （胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換）
- ・創傷管理関連（褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去）
 - ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

横井 俊博

- 【特定行為区分】
- ・救急領域パッケージ
- 【区分】
- 1 呼吸器（気道確保に係るもの）関連
- 〈行為〉
- ①経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
- 【区分】
- 2 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連
- 〈行為〉
- ②侵襲的陽圧換気の設定の変更
 - ③非侵襲的陽圧換気の設定の変更
 - ④人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調製
 - ⑤人工呼吸器からの離脱
- 【区分】
- 3 動脈血液ガス分析関連
- 〈行為〉
- ⑥直接動脈穿刺による採血
 - ⑦橈骨動脈ラインの確保
- 【区分】
- 4 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- 〈行為〉
- ⑧脱水症状に対する輸液による補正
- 【区分】
- 5 精神及び神経症状にかかる薬剤投与関連
- 〈行為〉
- ⑨抗けいれん剤の臨時的投与

スタッフ紹介



看護部長
高瀬 真弓
たかせ まゆみ



- （左上から）
- ・山本 優子（医療安全管理担当課長）
 - ・山田 友美（副看護師長/感染管理認定看護師）
 - ・中川 祐子（感染管理担当係長/感染管理認定看護師）
 - ・佐名木 里英（教育担当・看護職員業務改善担当係長）
 - ・塩田 輝美（認知症ケア・病床管理担当係長/認知症看護認定看護師）
- （左下から）
- ・吉永 友香（副看護部長）
 - ・塩田 美樹（副看護部長）
 - ・高瀬 真弓（看護部長/認定看護管理者）
 - ・梶原 多恵（副看護部長/小児救急看護認定看護師）
 - ・川崎 久美子（副看護部長/集中ケア認定看護師）



地域医療連携室

地域医療連携室

地域医療連携室のご紹介

地域医療連携室では、患者さんが住み慣れた地域で安心して生活ができるよう地域の医療機関・福祉施設などの関係機関と緊密に連携し、良質な医療の提供が行えるよう調整・連絡を行っています。また、地域医療連携室内に「前方支援」「後方支援」「患者支援」の3部門を設置しており、各部門の担当者が迅速に「連携」や「支援」が行えるように体制を整えています。

高齢化が進む中で医療相談のニーズも高まっています。当院では医療相談室を設置し療養上のお悩み、療養生活上の妨げになる問題（経済的なこと、受診に関すること、療養環境など）について、専門的に相談に応じる体制を整えています。

地域医療連携室のスタッフ

管理スタッフ

地域医療連携室長(医師)

木戸川 秀生
きどがわ ひでお

地域医療連携推進担当課長(看護師)

吉國 佐和子
よしくに さわこ

担当スタッフ

前方連携

- 医療機関からの診察や高額医療機器共同利用(CT・MRIなど)予約受付
- 患者さんに関する情報提供依頼への対応
- 紹介・逆紹介など地域医療連携に関するデータ管理
- 連携医療機関の登録に関する業務
- 病院の広報・渉外に関する業務
- 救急紹介患者さんの受入れ調整

事務職

地域医療連携推進担当係長

山崎 裕介
やまさき ゆうすけ

事務職

地域医療連携推進担当係長

大庭 光司
おおば こうじ

事務職・主任

倉岡 秀幸
くらおか ひでゆき

事務職

永末 明日香
ながすえ あすか

事務職

石田 友美
いしだ ともみ

事務職

山田 理恵
やまだ りえ

後方連携

- 転院に関するご相談・連絡調整
- 退院後の在宅医療・介護に関するご相談
- 退院後の施設入所に関するご相談

看護師

地域医療連携推進担当係長

金屋 美千代
かなや みちよ

看護師・主査

西田 ゆかり
にしだ ゆかり

看護師

江藤 扶紀
えとう ふき

看護師

中村 桃子
なかむら ももこ

看護師

川原 恵美子
かわはら えみこ

社会福祉士・主任

外山 陽子
とやま ようこ

社会福祉士・主任

野口 佳絵
のぐち かい

社会福祉士

戸井 佐知子
とい さちこ

患者支援

- 患者さんの状況に応じた各種医療費助成制度の利用に関するご相談
- 患者さんやご家族が抱える社会的・心理的・経済的な問題に関するご相談
- 予定入院患者さんに関する状況把握・不安的要素の聞き取り・問題点の抽出などの対応
- 児童虐待ケースの状況把握・援助方針などの進行管理・関係機関との連絡調整

看護師

地域医療連携推進担当係長

三淵 浩子
みぶち ひろこ

看護師

地域医療連携推進担当係長

立石 美枝子
たていし みえこ

看護師・主査

植田 啓子
うえだ けいこ

看護師・主査

田中 智子
たなか ともこ

看護師

伏下 みき
ふしした

社会福祉士・主任

山下 智子
やました ともこ

地域医療連携室へのご用命

フリーダイヤル 0120-41-6565

「在宅療養後方支援病院」のご案内

当院では診療所の先生方が在宅加療されている患者さん（原則として「在宅療養指導管理料」を算定されている患者さん）が、急性期医療を必要とする場合は、入院を含め24時間対応いたします。なお、やむをえず当院で入院加療が行えない場合は、当院から他の医療機関へのご紹介をいたします。

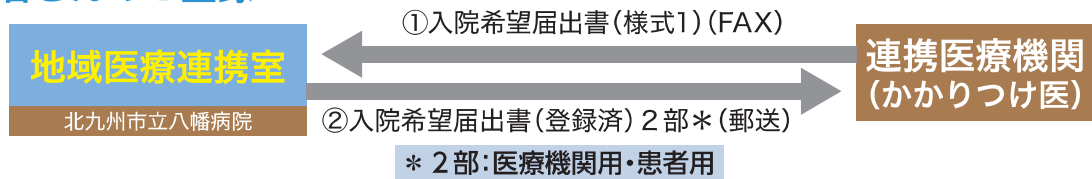
在宅療養後方支援の体制



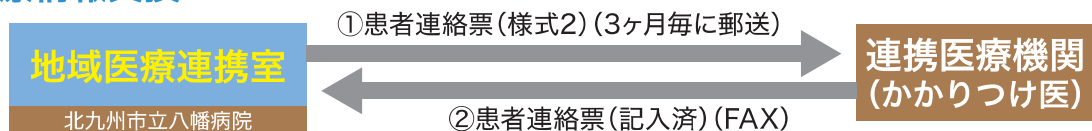
*入院希望患者登録される際は、以下の点にご留意ください。

- 以下の在宅管理料を算定されている患者さんが対象になります。
在宅時医学総合管理料・特定施設入居時等医学管理料・在宅がん医療総合診療料
在宅療養指導管理料(在宅自己注射指導管理料を除く)を入院前月又は入院月に算定
- 1人の患者さんが複数病院の入院希望登録は行えません。
- 入院時に在宅患者緊急入院加算を算定します。(2,500点 入院時1回のみ)

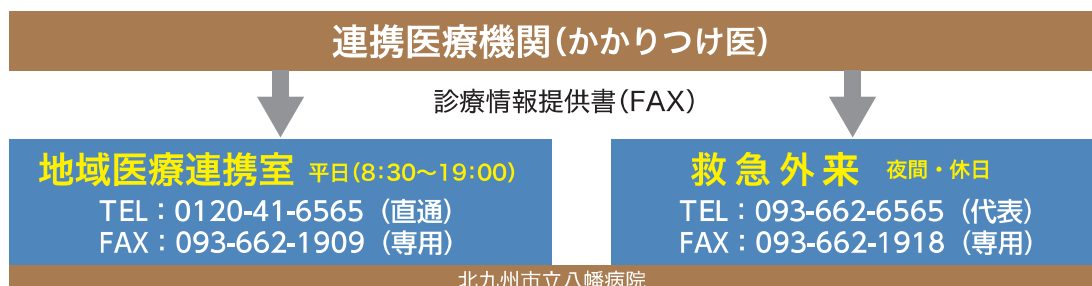
1. 患者さんのご登録



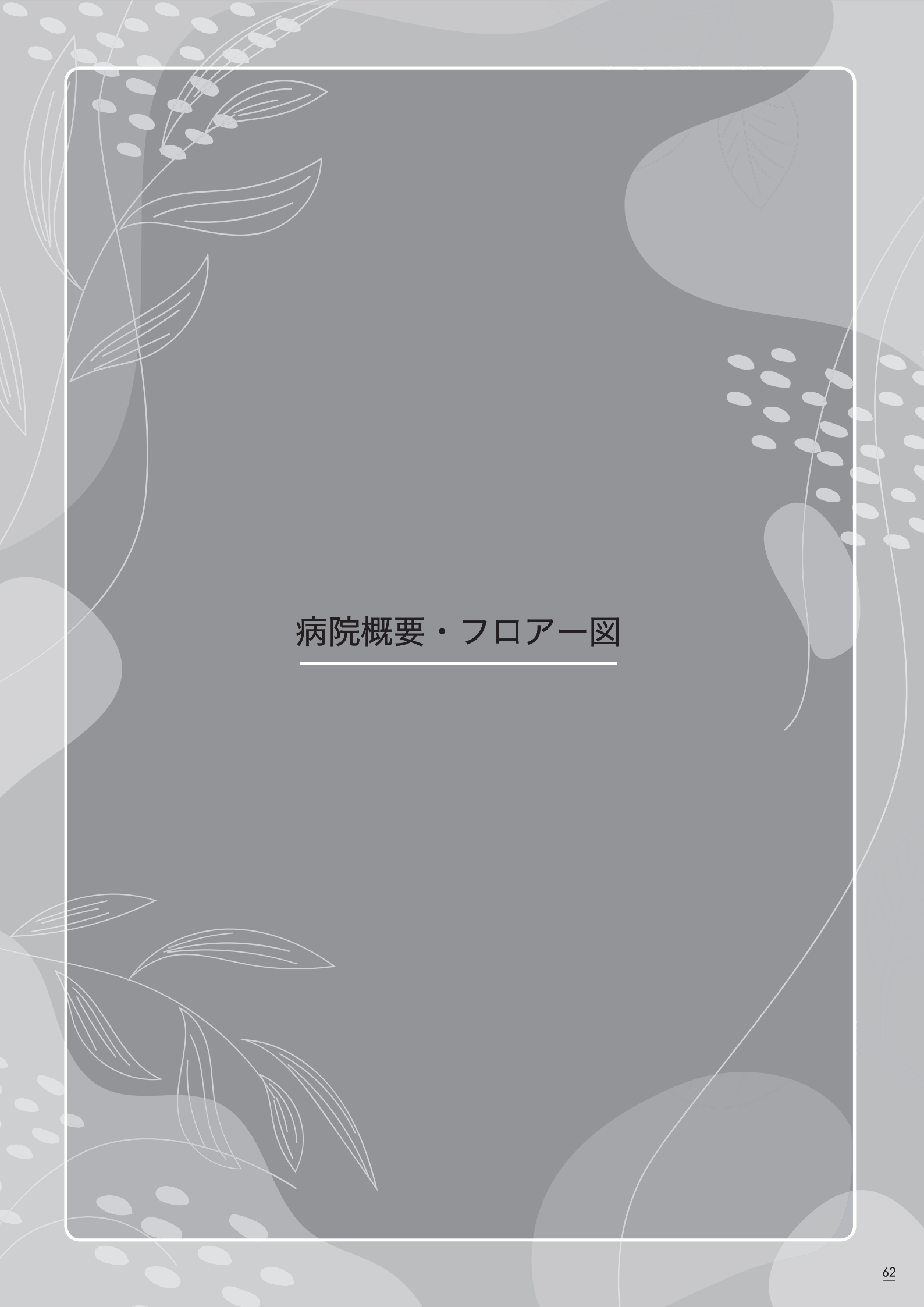
2. 診療情報交換



3. 診療のご依頼



お問い合わせ先 : 北九州市立八幡病院 医療連携室 平日(8:30~17:00) TEL:093-662-0990(連携室直通)



病院概要・フロアー図

病院概要

概要

名 称	北九州市立八幡病院		
所 在 地	〒805-8534 福岡県北九州市八幡東区尾倉二丁目6番2号		
電 話 番 号	TEL 093-662-6565(代表) FAX 093-662-1796		
開 設 年 月 日	平成31年4月1日		
院 長	岡本 好司		
副 院 長	天本 正乃 / 岡部 聡 / 田崎 幸博		
看 護 部 長	高瀬 真弓		
事 務 局 長	瀬戸口 誠		
開 設 者	地方独立行政法人 北九州市立病院機構		
理 事 長	中西 洋一		
構 造	地上7階(屋上にヘリポート)、鉄骨造(免震構造)		
施 設 概 要	延床面積 約28,600㎡ 敷地面積 約24,000㎡		
病 床 数	350床(内訳) 一般病床: 336床、ICU: 6床、HCU: 8床		
職 員 数	755人(パート含む 令和7年4月1日現在)		
	医師(歯科医師含む): 92名	臨床工学技士: 6名	視能訓練士: 1名
	看護師(准看護師含む): 406名	歯科衛生士: 2名	社会福祉士: 4名
	看護補助者: 34名	理学療法士: 12名	保育士: 7名
	薬剤師: 29名	作業療法士: 8名	心理士: 2名
	診療放射線技師: 23名	言語聴覚士: 4名	子ども療養支援士: 1名
	臨床検査技師: 29名	管理栄養士: 6名	救急救命士: 2名
			診療情報管理士: 5名
			事務: 80名

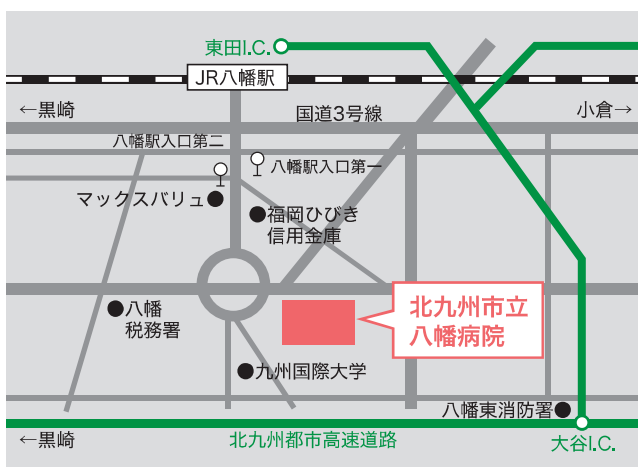
標榜診療科

・内科	・消化器外科	・小児外科	・泌尿器科	・精神科
・呼吸器内科	・呼吸器外科	・脳神経外科	・婦人科	・歯科
・循環器内科	・肝臓外科	・整形外科	・眼科	・救急科
・小児科	・胆のう外科	・リハビリテーション科	・耳鼻咽喉科・頭頸部外科	・臨床検査科
・小児血液・腫瘍内科	・脾臓外科	・形成外科	・放射線科	
・外科	・内視鏡外科	・皮膚科	・麻酔科	

学会等施設認定

- ・福岡県集団検診協議会検診精密検査実施医療機関(胃がん・子宮がん・肺がん・乳がん・大腸がん・肝臓がん・骨粗しょう症・前立腺がん)
- ・福岡県救急病院認定
- ・福岡県肝疾患専門医療機関
- ・障害者の指定自立支援医療機関
- ・生活保護法指定医療機関(医科・歯科)
- ・難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関
- ・小児慢性特定疾病指定医療機関
- ・原子力災害医療協力機関
- ・小児がん連携病院
- ・医療被ばく低減施設
- ・一次脳卒中センター認定
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設(一般研修医施設)
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本外傷学会外傷専門医研修施設
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会関連施設
- ・認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設
- ・日本がん治療認定機構認定研修施設
- ・日本小児血液・がん学会専門医研修施設
- ・久留米大学教育関連診療科
- ・日本超音波医学会超音波専門医研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
- ・日本専門医機構専門医制度専門研修プログラム認定施設(小児科領域)
- ・日本専門医機構救急科エキスパート研修プログラム認定施設
- ・日本呼吸器学会関連施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本小児総合医療施設協議会(JACHRI)会員施設(小児病棟型)
- ・日本消化器内視鏡学会JED Project参加施設
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
- ・日本脳神経外科学会専門医関連施設
- ・日本小児外科学会専門医制度教育関連施設
- ・日本形成外科学会認定医研修施設
- ・日本内科学会研修連携施設
- ・日本循環器学会専門医研修施設(新制度)
- ・日本プライマリケア学会認定研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本血栓止血学会認定施設
- ・日本小児神経学会 小児神経専門医研修認定施設関連施設
- ・非血縁者間骨髄採取認定施設
- ・一般社団法人日本胆道学会 日本胆道学会指導施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医関連施設
- ・医療薬学専門薬剤師研修施設(連携施設)
- ・地域リハビリテーション協力機関
- ・日本高血圧学会高血圧研修施設

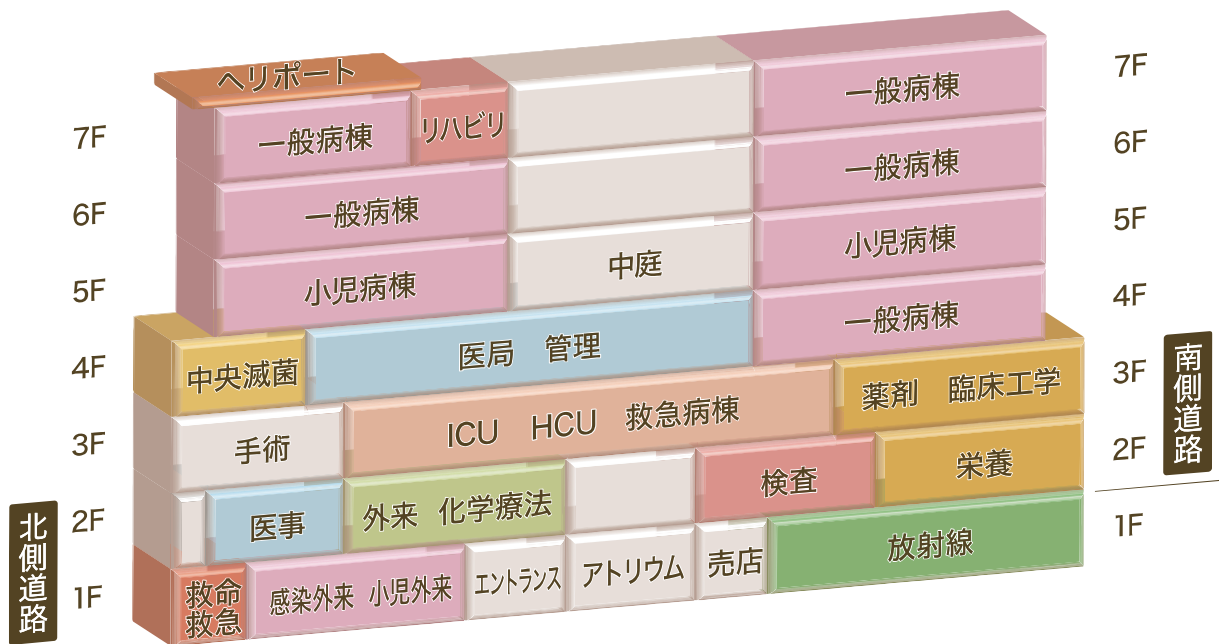
アクセス



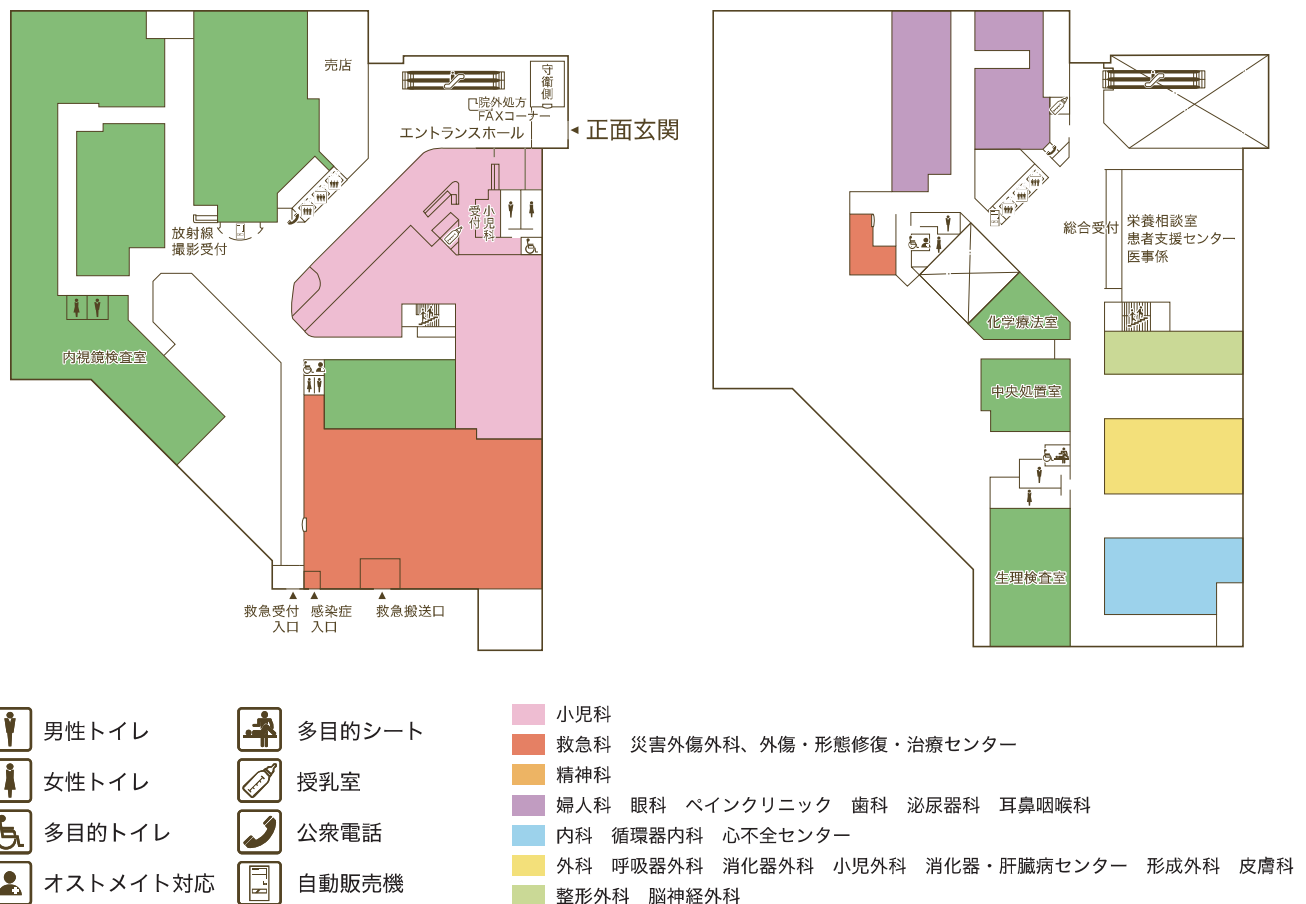
- JR鹿児島本線 八幡駅から徒歩9分
- 西鉄バス 「市立八幡病院」病院敷地内「八幡駅入口第一・第二」から徒歩6分
- 都市高速道路 大谷インターから車で5分
東田インターから車で5分

フロアー図

全面案内図



外来案内図 (1階～2階)





地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立八幡病院



Twitter



Facebook



Instagram

